

南陽市遺跡分布調査報告書 (10)

市内遺跡分布調査
第四次長岡南森遺跡確認調査 (概報)

2022 年 3 月

南陽市教育委員会

南陽市遺跡分布調査報告書（10）

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

市内遺跡分布調査

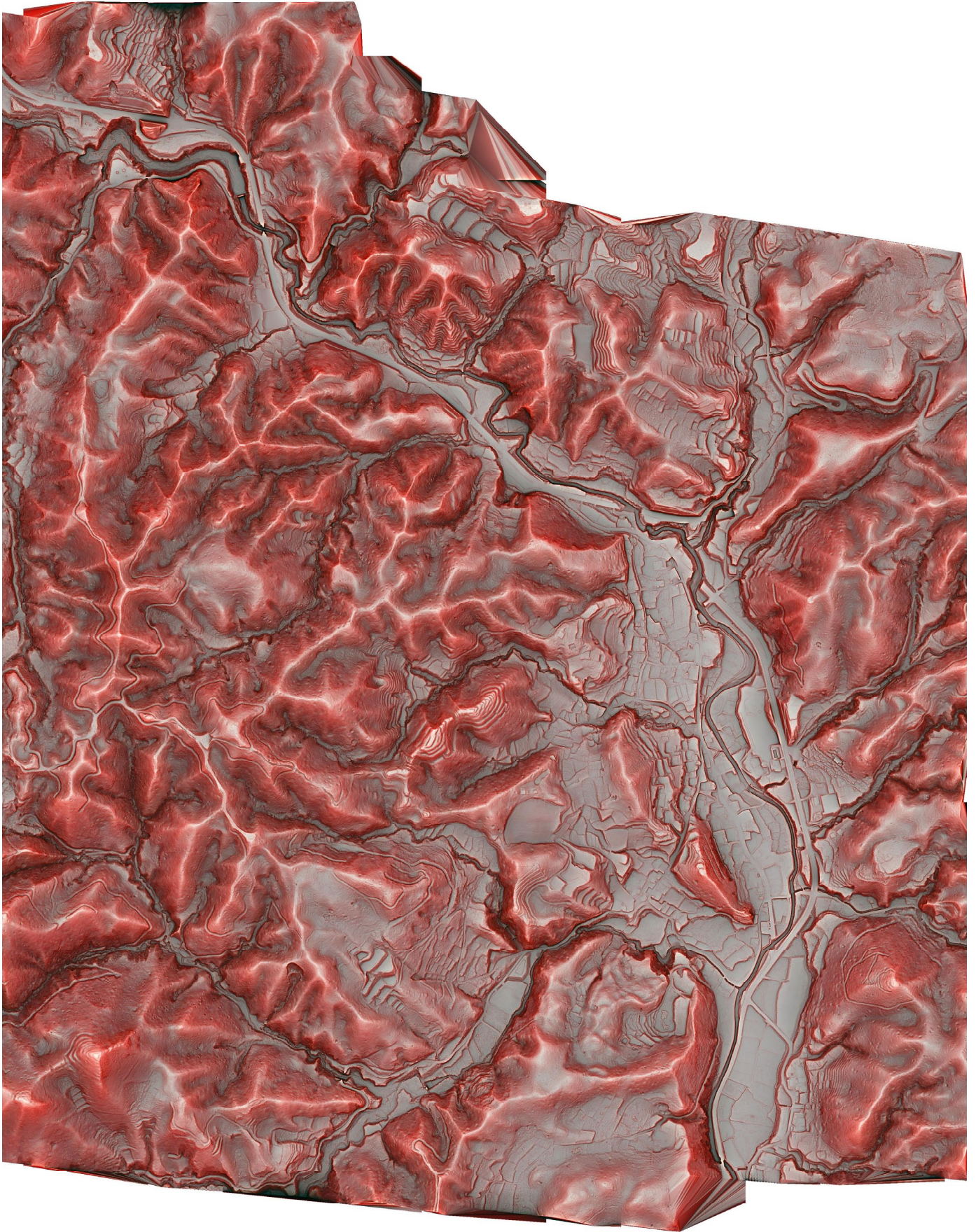
第四次長岡南森遺跡確認調査（概報）

令和 4 年 3 月

南陽市教育委員会



矢ノ目館跡 SD2 出土 須恵器壺



小滝館周辺赤色立体図

序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（10）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が、令和3年度に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等事業）として、各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために実施した踏査・試掘調査・工事立会等の分布調査の成果の他、長岡南森遺跡の第四次確認調査の成果概要をまとめたものです。

今年度も新型コロナウイルス感染症の世界的流行が続き、社会生活の様々な面で大きな影響を受けました。本市の埋蔵文化財調査も例外ではなく、マスクの着用や手洗い、ソーシャルディスタンス確保の他、調査員の健康状態を毎日チェックするなど、前年度以上に感染症対策を講じ実施しました。新型コロナウイルス感染症の一日でも早い収束を切に願うところです。

さて、本市には、旧石器時代から中世に至るまで数多くの遺跡がございます。遺跡は、その土地や地域の歴史を明らかにする貴重な宝です。この宝は、世代を越えて歴史と文化を伝え、故郷を愛する心やそこに生きる人々の誇りを育む心の糧となるものであり、大切に守っていかねばなりません。引き続き皆様の御理解と御協力、ならびに関係各位の御指導をお願いいたします。

結びになりますが、本報告書作成にあたり、各種調査に御指導と御協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

令和4年3月

南陽市教育委員会
教育長 長濱 洋美

目 次

市内遺跡分布調査

I 調査の概要

- 1 調査の目的と概要…………… 1
- 2 調査方法…………… 1

II 踏査

- 1 池黒館山館…………… 7
- 2 武道作山館…………… 9
- 3 北館…………… 11
- 4 日影館…………… 13
- 5 大滝沢館…………… 15

III 試掘調査

- 1 長岡山東遺跡…………… 17
- 2 蒲生田山古墳群…………… 18
- 3 平野 C 遺跡…………… 20
- 4 漆山字東寺町…………… 22
- 5 矢ノ目館跡…………… 24
- 6 長岡山東遺跡…………… 26
- 7 割田館跡…………… 28
- 8 馬場遺跡隣地…………… 29
- 9 三間通字諏訪西…………… 31
- 10 矢ノ目館跡…………… 33
- 11 柵塚字中谷地…………… 34
- 12 東六角遺跡…………… 36

IV 立会調査

- 1 南陽市内携帯電話無線基地局(4か所)
 - ①宮内字湯街道二…………… 37
 - ②長岡山東遺跡…………… 38
 - ③小岩沢遺跡…………… 39
 - ④中屋敷遺跡隣地…………… 40
- 2 久根崎遺跡隣地…………… 41
- 3 若狭郷屋字沢見…………… 42
- 4 北町遺跡…………… 43
- 5 三間通字西唐越…………… 44
- 6 川樋大字大洞山…………… 45
- 7 羽付字道東…………… 46

V 中世城館等測量調査

- 1 調査概要と目的…………… 47
- 2 調査方法…………… 47
- 3 測量方法と経過…………… 48
- 4 主な成果…………… 48

第四次長岡南森遺跡確認調査(概報)

- I 調査の経緯と目的…………… 57
- II 遺跡の位置と環境…………… 61
- III 調査の概要…………… 62

図 版

| | | | | | |
|------|----------------------|----|------|---------------------|----|
| 第1図 | 調査位置図(1) …………… | 2 | 第43図 | 割田館跡ピット柱状図 …………… | 28 |
| 第2図 | 調査位置図(2) …………… | 3 | 第44図 | 馬場遺跡隣地調査位置図 …………… | 29 |
| 第3図 | 調査位置図(3) …………… | 4 | 第45図 | 馬場遺跡隣地調査範囲図 …………… | 29 |
| 第4図 | 調査位置図(4) …………… | 4 | 第46図 | 馬場遺跡隣地トレンチ柱状図 …………… | 29 |
| 第5図 | 調査位置図(5) …………… | 4 | 第47図 | 三間通字諏訪西調査位置図 …………… | 31 |
| 第6図 | 池黒館山館調査位置図 …………… | 7 | 第48図 | 三間通字諏訪西調査範囲図 …………… | 31 |
| 第7図 | 池黒館山館踏査ルート …………… | 7 | 第49図 | 三間通字諏訪西ピット柱状図 …………… | 31 |
| 第8図 | 池黒館山館(左)・別所館(右)略図 …… | 8 | 第50図 | 矢ノ目館跡調査位置図 …………… | 33 |
| 第9図 | 武道作山館調査位置図 …………… | 9 | 第51図 | 矢ノ目館跡調査範囲図 …………… | 33 |
| 第10図 | 武道作山館踏査ルート図 …………… | 9 | 第52図 | 矢ノ目館跡ピット柱状図 …………… | 33 |
| 第11図 | 武道作山館略図 …………… | 10 | 第53図 | 柵塚字中谷地調査位置図 …………… | 34 |
| 第12図 | 北館調査位置図 …………… | 11 | 第54図 | 柵塚字中谷地調査範囲図 …………… | 34 |
| 第13図 | 北館踏査ルート図 …………… | 11 | 第55図 | 柵塚字中谷地ピット柱状図 …………… | 34 |
| 第14図 | 北館略図 …………… | 12 | 第56図 | 東六角遺跡調査位置図 …………… | 36 |
| 第15図 | 日影館調査位置図 …………… | 13 | 第57図 | 東六角遺跡調査範囲 …………… | 36 |
| 第16図 | 日影館踏査ルート図 …………… | 13 | 第58図 | 東六角遺跡ピット柱状図 …………… | 36 |
| 第17図 | 日影館修正図 …………… | 14 | 第59図 | 宮内字湯街道二調査位置図 …………… | 37 |
| 第18図 | 大滝沢館調査位置図 …………… | 16 | 第60図 | 宮内字湯街道二調査掘削位置図 …… | 37 |
| 第19図 | 大滝沢館踏査ルート図 …………… | 16 | 第61図 | 宮内字湯街道二ピット柱状図 …… | 37 |
| 第20図 | 大滝沢館略図 …………… | 16 | 第62図 | 長岡山東遺跡調査位置図 …………… | 38 |
| 第21図 | 長岡山東遺跡調査位置図 …………… | 17 | 第63図 | 長岡山東遺跡調査掘削位置図 …… | 38 |
| 第22図 | 長岡山東遺跡調査範囲図 …………… | 17 | 第64図 | 長岡山東遺跡柱状図 …………… | 38 |
| 第23図 | 長岡山東遺跡ピット柱状図 …………… | 17 | 第65図 | 小岩沢遺跡調査位置図 …………… | 39 |
| 第24図 | 蒲生田山古墳群調査位置図 …… | 18 | 第66図 | 小岩沢遺跡調査掘削位置図 …… | 39 |
| 第25図 | 蒲生田山古墳群調査範囲図 …… | 18 | 第67図 | 小岩沢遺跡柱状図 …………… | 39 |
| 第26図 | 長岡山東遺跡ピット・トレンチ柱状図 … | 18 | 第68図 | 中屋敷遺跡隣地調査位置図 …… | 40 |
| 第27図 | 平野C遺跡調査位置図 …………… | 20 | 第69図 | 中屋敷遺跡隣地掘削位置図 …… | 40 |
| 第28図 | 平野C遺跡調査範囲図 …………… | 20 | 第70図 | 中屋敷遺跡隣地柱状図 …………… | 40 |
| 第29図 | 平野C遺跡ピット・トレンチ柱状図 …… | 20 | 第71図 | 久根崎遺跡隣地調査位置図 …… | 41 |
| 第30図 | 漆山字東寺町調査位置図 …… | 22 | 第72図 | 久根崎遺跡隣地掘削位置図 …… | 41 |
| 第31図 | 漆山字東寺町調査範囲図 …… | 22 | 第73図 | 久根崎遺跡隣地柱状図 …………… | 41 |
| 第32図 | 漆山字東寺町トレンチ柱状図 …… | 22 | 第74図 | 若狭郷屋字沢見調査位置図 …… | 42 |
| 第33図 | 矢ノ目館跡調査位置図 …………… | 24 | 第75図 | 北町遺跡調査位置図 …………… | 43 |
| 第34図 | 矢ノ目館跡調査範囲図 …………… | 24 | 第76図 | 北町遺跡柱状図 …………… | 43 |
| 第35図 | 矢ノ目館跡トレンチ柱状図 …………… | 24 | 第77図 | 三間通字西唐越調査位置図 …… | 44 |
| 第36図 | 矢ノ目館跡SD2出土遺物実測図 …… | 24 | 第78図 | 川樋大字大洞山調査位置図 …… | 45 |
| 第37図 | 矢ノ目館跡トレンチ平面図・断面図 …… | 25 | 第79図 | 川樋大字大洞山柱状図 …………… | 45 |
| 第38図 | 長岡山東遺跡調査位置図 …………… | 26 | 第80図 | 羽付字道東調査位置図 …………… | 46 |
| 第39図 | 長岡山東遺跡調査範囲図 …………… | 26 | 第81図 | 羽付字道東柱状図 …………… | 46 |
| 第40図 | 長岡山東遺跡トレンチ柱状図 …………… | 26 | 第82図 | 調査遺跡位置図 …………… | 47 |
| 第41図 | 割田館跡調査位置図 …………… | 28 | 第83図 | レーザー測量計画範囲図 …… | 48 |
| 第42図 | 割田館跡調査範囲図 …………… | 28 | 第84図 | 小滝館略図 …………… | 49 |

| | | | | | |
|--------|------------|----|--------|-------------|----|
| 第 85 図 | 女館・男館略図 | 50 | 第 92 図 | 第 9 トレンチ図 | 68 |
| 第 86 図 | 向畑 C 遺跡 | 51 | 第 93 図 | 第 10a トレンチ図 | 69 |
| 第 87 図 | 修法壇 | 51 | 第 94 図 | 第 11 トレンチ図 | 69 |
| 第 88 図 | 西中堀四の西の壇 | 51 | 第 95 図 | 第 10b トレンチ図 | 70 |
| 第 89 図 | 長岡南森遺跡平面図 | 60 | 第 96 図 | 第 12 トレンチ図 | 71 |
| 第 90 図 | 第 8a トレンチ図 | 65 | 第 97 図 | 第 13 トレンチ図 | 72 |
| 第 91 図 | 第 8b トレンチ図 | 66 | | | |

表

| | | | | | |
|-----|------|---|-----|--------|----|
| 表 1 | 調査遺跡 | 5 | 表 2 | グリッド数値 | 57 |
|-----|------|---|-----|--------|----|

巻頭写真

巻頭写真 1 矢ノ目館跡 SD2 出土 須恵器壺

巻頭写真 2 小滝館周辺赤色立体図

長岡南森遺跡確認調査写真図版

写真図版 1 長岡南森遺跡調査前状況 (1)

写真図版 5 第 10 トレンチ調査状況 (1)

写真図版 2 長岡南森遺跡調査前状況 (2)

写真図版 6 第 10 トレンチ調査状況 (2)

写真図版 3 第 8 トレンチ a 調査状況

写真図版 7 第 9・12・13 トレンチ調査状況

写真図版 4 第 8 トレンチ b 土層断面

写真図版 8 長岡南森遺跡出土遺物

市内遺跡分布調査

本報告は、文化庁の補助を受けて令和3年度に南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整、遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡 例

| | | | |
|---------|---------------------|--------------------|--|
| 調査主体 | 南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係 | | |
| 調査期間 | 令和3年4月1日から令和4年3月31日 | | |
| 発掘調査担当者 | 社会教育課長 | 山口広昭 | |
| | 調査主任 | 角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長） | |
| | 埋蔵文化財係主任 | 高橋 徹 | |
| | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 斉藤紘輝 | |
| 整理作業担当者 | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 吉田江美子 | |
| | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 山田 渚 | |

1 本報告書の執筆は角田朋行・高橋徹・斉藤紘輝が担当し、遺物整理作業・遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子、山田渚が担当した。

2 挿図の縮尺はスケールで示した。

3 本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。

S D・・・溝跡 S P・・・ピット

T T・・・テストトレンチ T P・・・テストピット

4 写真図版は任意の縮尺で採録した。

I 調査の概要

1 調査の目的と概要

今年度は、従来の住宅地造成と個人住宅建設に加え、近年増加傾向にある携帯電話基地局の設置など各種開発との調整を図り、遺跡の保護のための試掘調査及び工事立会を実施した。

各種調査に伴い遺跡台帳整備も順調に成果が上がってきているが、未調査地域はまだ残されている。特に市域の7割を占める山間地や、古くからの住宅地も未調査地域が多い。また、周知の遺跡でも情報が少ない遺跡が存在するため、それらも含めて遺跡台帳整備のための分布調査を継続している。

周知の遺跡の中でも、長岡南森遺跡については今年度が4年目の確認調査となり、次年度以降も継続する予定である。

令和3年4月から12月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は、計67件であった。直接的な対応を実施した件数は計20件であった。内訳は踏査3件、試掘調査10件、工事立会7件である。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地及びその隣接地・分布調査未実施地において実施に努めた。工事立会は、工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断した場合、及び分布調査未実施地において実施した。

2 調査方法

(1) 踏査及び分布調査

踏査は、開発事業計画地の範囲内及びその周辺において実施し、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。主に周知の資料により、地形状況や従来の報告等の内容を確認している。GPS付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。遺跡台帳の整備を図るため重要遺跡の航空レーザー測量調査を行った。

(2) 試掘調査

試掘調査は、埋蔵文化財の有無を確認するための部分的な発掘調査である。本市では遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う確認調査の側面も有する。調査予定地内にグリッドを設定のうえ試掘溝あるいは試掘坑を配し、表土を人力や重機で除去後、堆積土を人力で除去し、遺構の有無を確認した。

(3) 工事立会

工事立会は、基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立ち会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の掘底面である。遺跡未確認地の場合も可能な限り工事立会を行い遺跡の把握に努めた。

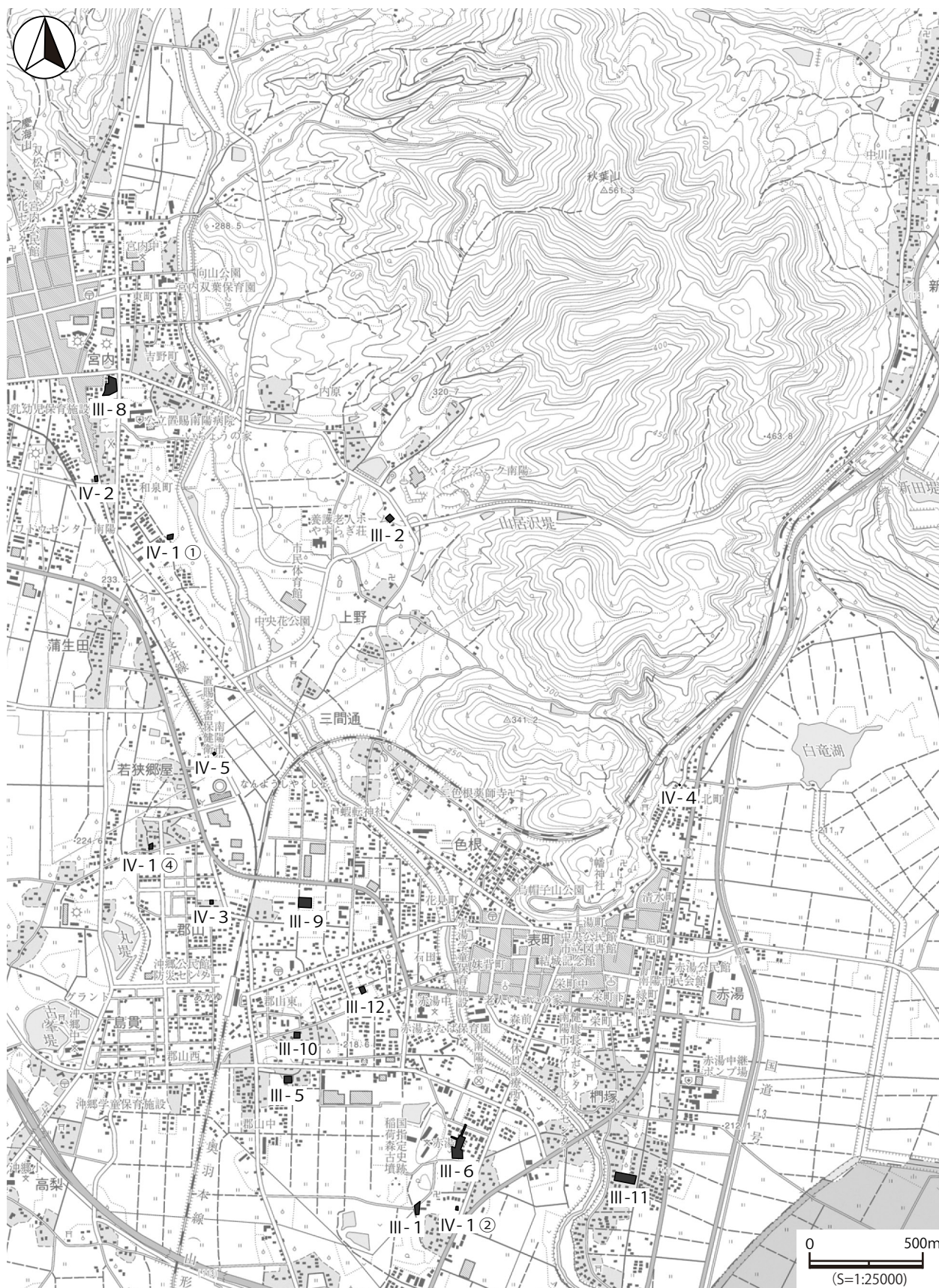
(4) 確認調査

埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格内容等の概要を把握する部分的な発掘調査である。



第1図 調査位置図(1)

平成26年3月作成「南陽市全図」を使用

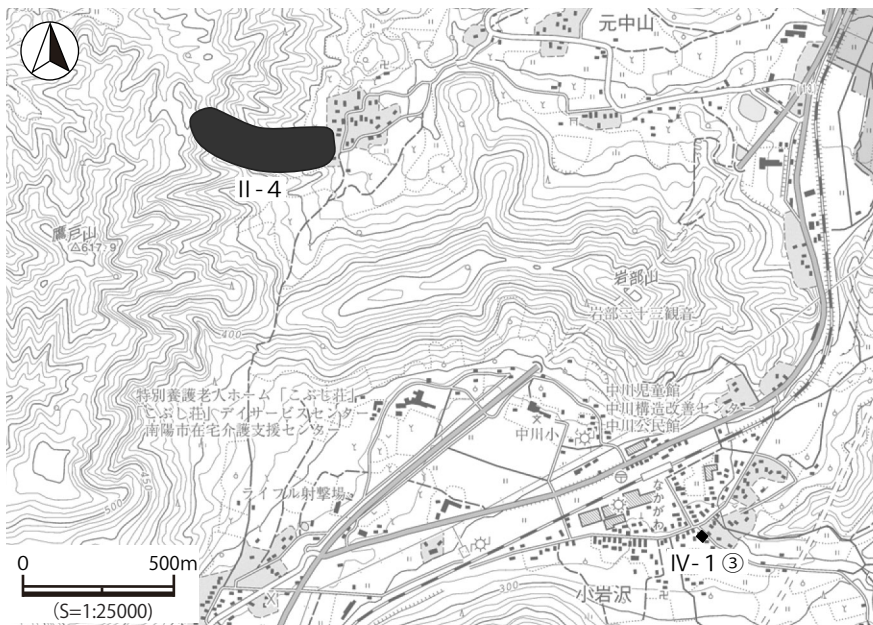
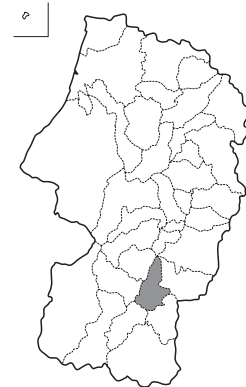


第2図 調査位置図(2)

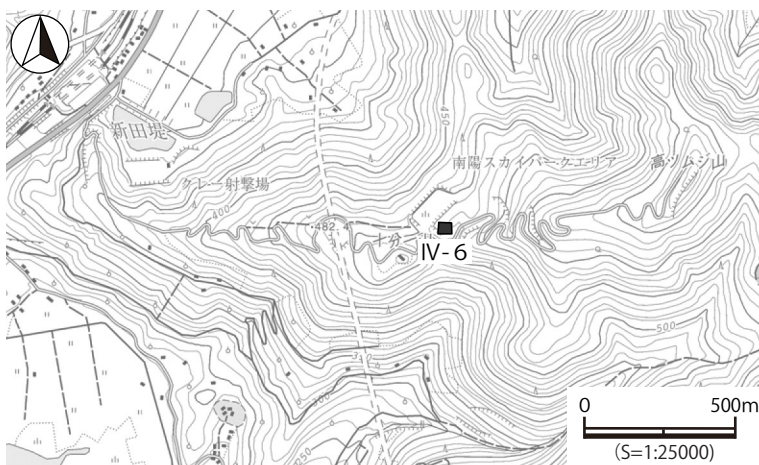
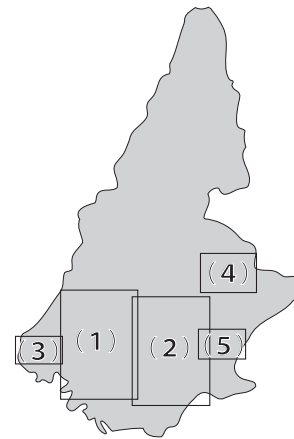
平成26年3月作成「南陽市全図」を使用



第3図 調査位置図 (3)



第4図 調査位置図 (4)



第5図 調査位置図 (5)

平成26年3月作成「南陽市全図」を使用

表1 調査遺跡

| 地区 | 事業区分 | 現場調査期間 | 遺跡名等 | 場所 | 区分 | 試掘結果等 |
|----|--------|---------------------|---------|------------------------------|-----|---------------------------|
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年2月16日 | 長岡山東遺跡 | 長岡字西田中南 | 立会 | なし |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年2月25日 | 長岡山東遺跡 | 長岡字西田中南 | 試掘 | なし |
| 赤湯 | 古墳確認調査 | 令和3年5月12日 ～7月20日 | 長岡南森遺跡 | 長岡字南森 ほか | 本調査 | 概報参照 |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年7月27日 | 長岡山東遺跡 | 長岡字北田 | 試掘 | なし |
| 赤湯 | 水道工事 | 令和3年9月1日 | 北町遺跡 | 赤湯字新田 | 立会 | なし |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年10月4日 | 未確認 | 三間通字西唐越 | 立会 | なし |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年10月14日 | 未確認 | 三間通字諏訪西 | 試掘 | なし |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年10月25日 | 未確認 | 櫛塚字中谷地一 | 試掘 | なし |
| 赤湯 | 民間開発 | 令和3年11月18日 | 東六角遺跡 | 三間通字西蔵田 | 試掘 | なし |
| 漆山 | 広域分布調査 | 令和3年3月17日 | 未確認 | 池黒字上ノ平、字長谷堂 | 踏査 | なし |
| 漆山 | 民間開発 | 令和3年4月20日 | 未確認 | 漆山字東寺町 | 試掘 | 遺物136点 (土師器須恵器小片混在) |
| 漆山 | 公共施設整備 | 令和3年10月29日 | 未確認 | 羽付字道東 | 立会 | なし |
| 漆山 | 広域分布調査 | 令和3年11月18日 | 未確認 | 漆山字新山、屋敷浦、深沢、 館ヶ沢、大滝沢、雪ヶ沢 | 踏査 | 遺構確認 |
| 沖郷 | 民間開発 | 令和3年5月17日 | 未確認 | 若狭郷屋字沢見 | 立会 | なし |
| 沖郷 | 民間開発 | 令和3年5月24日 | 中屋敷遺跡隣地 | 若狭郷屋字中屋敷 | 立会 | なし |
| 沖郷 | 民間開発 | 令和3年5月26日、 27日 | 矢ノ目館跡 | 郡山字砂原 | 試掘 | 溝跡3条、柱穴9箇所、 遺物(須恵器土師器) |
| 沖郷 | 民間開発 | 令和3年10月18日 | 矢ノ目館跡 | 郡山字北的 | 試掘 | 遺物5点(土師器小片)、 遺構なし |
| 中川 | 広域分布調査 | 令和3年4月7日 | 日影館 | 元中山字日影 | 踏査 | なし |
| 中川 | 民間開発 | 令和3年4月28日 | 小岩沢遺跡 | 小岩沢字水上 | 立会 | なし |
| 中川 | 公共施設整備 | 令和3年10月26日 | 未確認 | 川樋字大洞山 | 立会 | なし |
| 宮内 | 民間開発 | 令和3年1月13日 | 未確認 | 宮内字湯街道二 | 立会 | なし |
| 宮内 | 公共施設整備 | 令和3年1月13、 14日 | 久根崎遺跡隣地 | 宮内字久根崎 | 立会 | なし |
| 宮内 | 広域分布調査 | 令和3年3月17日 | 未確認 | 宮内字武道作山 | 踏査 | なし |
| 宮内 | 広域分布調査 | 令和3年4月6日 | 北館 | 宮内字白山堂、梅ヶ沢山、 武道作山外 | 踏査 | なし |
| 宮内 | 民間開発 | 令和3年9月7日 | 馬場遺跡隣地 | 宮内字一本杉三 | 試掘 | なし |
| 梨郷 | 民間開発 | 令和3年3月18日 | 蒲生田山古墳群 | 上野字山居沢 | 試掘 | なし |
| 梨郷 | 民間開発 | 令和3年4月13日 | 平野C遺跡 | 梨郷字平野 | 試掘 | なし |
| 梨郷 | 民間開発 | 令和3年8月10日 | 割田館跡 | 竹原字酒町二 | 試掘 | 陶器片(新しいもの) 遺構なし |

II 踏 査

1 池黒館山館

- (1) 調 査 日 令和3年3月17日
- (2) 調査場所 南陽市池黒字上ノ平、字長谷堂
- (3) 調査目的 遺跡台帳整備のための現況確認
- (4) 調査方法及び内容

航空レーザー測量により新たに判明した館跡の現況確認と、遺跡台帳整備のために踏査を行う。

(5) 結 果

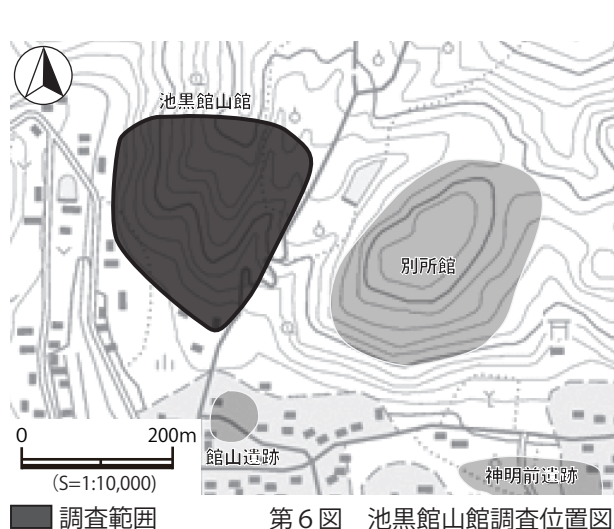
調査地は池黒館山館である。

主郭から南に延びる二本の枝尾根に階段状の曲輪群を配する。東側尾根の階段状曲輪は西側尾根に比べて一つ一つがやや広く、堀切と土塁も確認される。堀切は幅 8.73m、高さ 2.82m である。北の切岸が高く、南北の上場の高低差は 2m になる。図には記していないが、間の谷部に、曲輪群と主郭部に続く道が見られた。主郭は山頂前面（南）に二段の曲輪を配し、一段目と二段目は高さ約 7m の切岸で区画している。下の段の東端には馬出状の遺構があり、上の段は東から西に一段下がる地形をとり、山頂は最高所に向けてなだらかな傾斜が続き積極的に均したようには見えない。

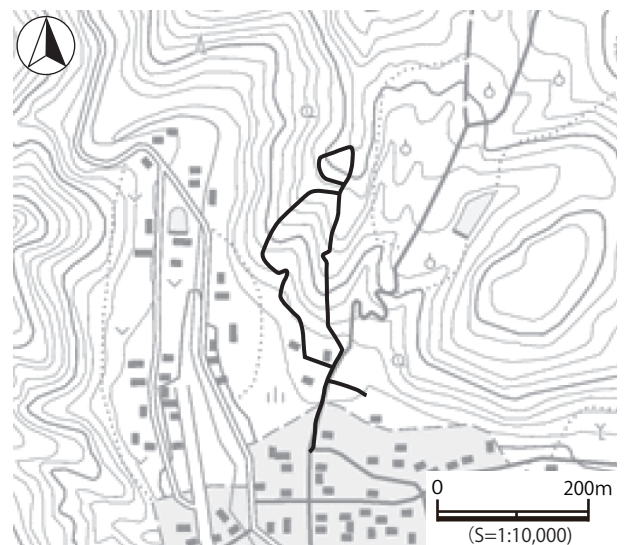
最高所の北端に高台状の地形を確認した。高台状の地形から北には幅 18.55m、高さ 4.44m の堀切がある。

館の曲輪の配置は、高島町の志田館*に類似している。

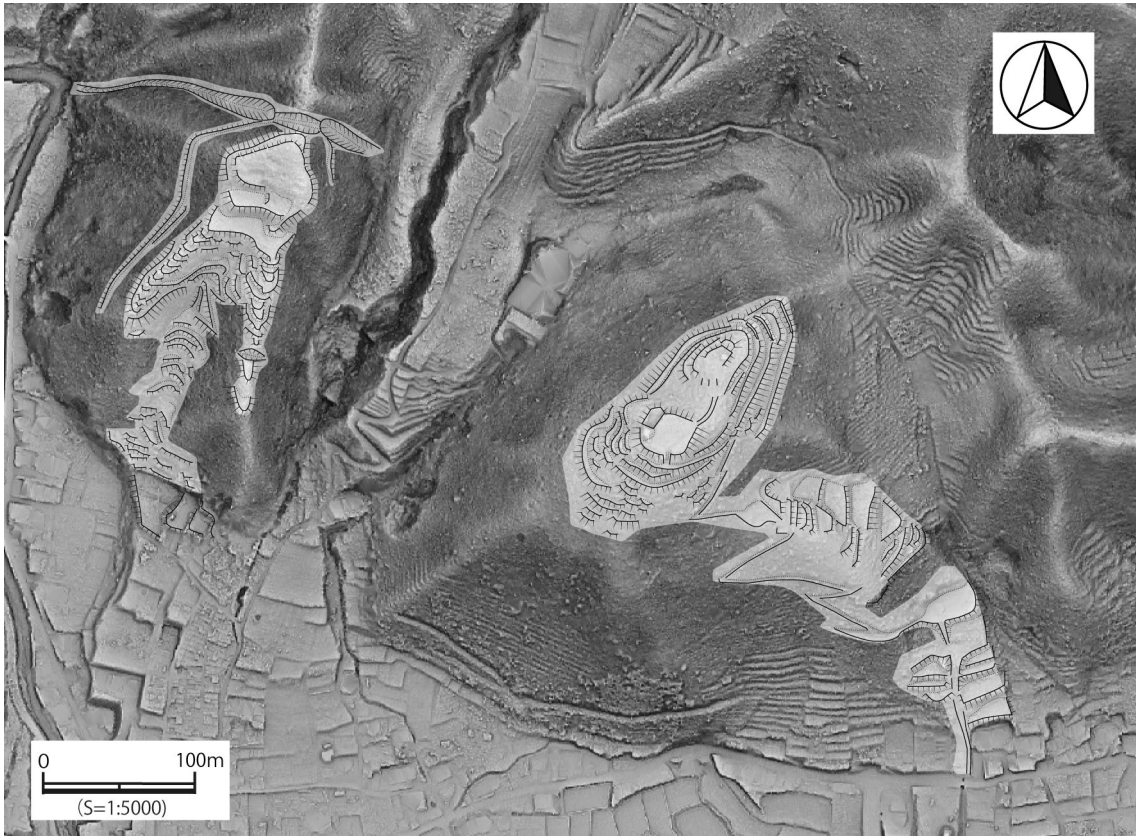
*山形県教育委員会 1995『山形県中世城館遺跡調査報告書第1集（置賜地域）』より



第6図 池黒館山館調査位置図



第7図 池黒館山館踏査ルート



第8図 池黒館山館 (左)・別所館 (右) 略図



池黒館山館 西尾根の階段状曲輪群 (北より)



池黒館山館 東尾根の階段状曲輪群 (北より)



池黒館山館 東側の尾根の堀切 (西より)



池黒館山館 主郭東端にある馬出状の遺構上面 (西より)

2 武道作山館

- (1) 調査日 令和3年3月17日
 (2) 調査場所 南陽市宮内字武道作山
 (3) 調査目的

航空レーザー測量により新たに判明した館跡の現況確認と、遺跡台帳整備のために踏査を行う。

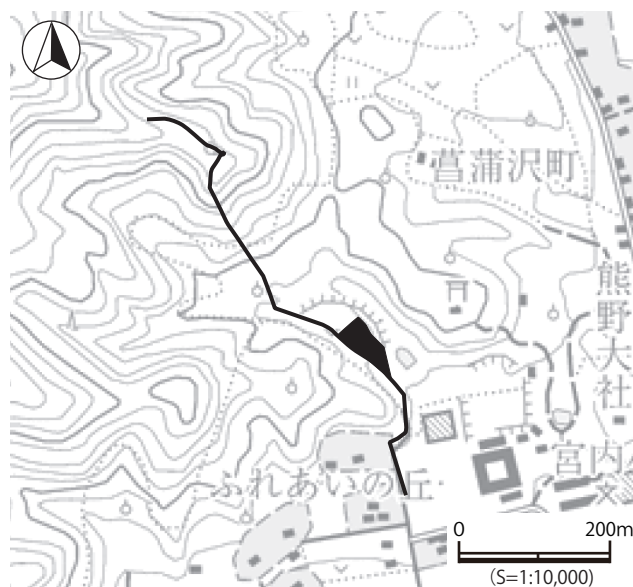
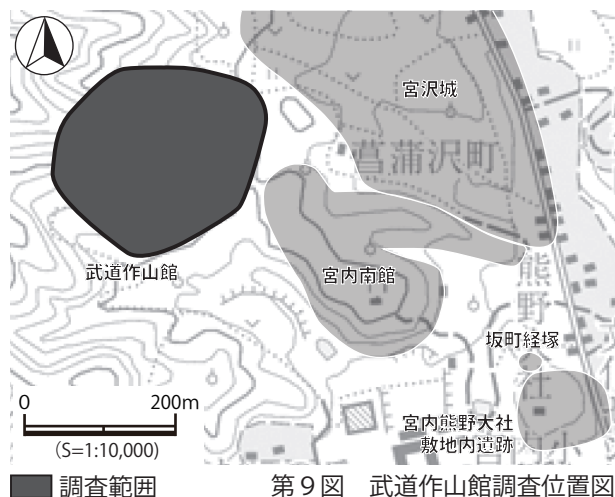
- (4) 調査方法及び内容

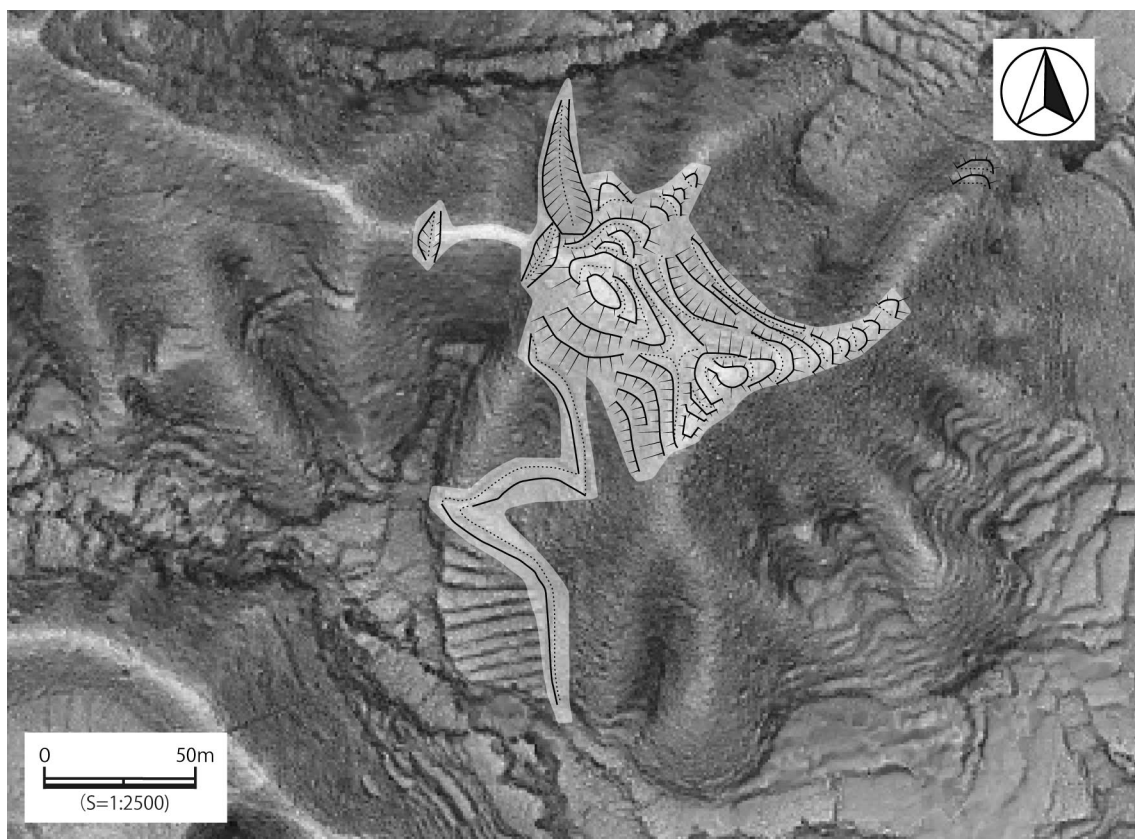
赤色立体地図を元に、写真撮影を行いながら踏査する。

- (5) 結 果

調査地は武道作山館で、宮沢城を中心とする城郭群の一つである。枝尾根の端部に位置する二つの尾根頂を囲んで曲輪を形成する。主郭と見られる二つの尾根頂は5～8mほど落ち込む鞍部を挟み、複郭と見ると理解が早い。山地に囲まれ見通しの悪い宮沢城の物見としての機能もあったと思われ、東郭の主郭標高は376m、西郭の主郭標高は380mと高く、高畠・米沢方面と宮沢城方面を一望できる。

東郭は南北に階段状曲輪を配し、山頂より少し西に下った地点に直径2mの窪地が見られる。西郭は主郭の周囲に帯曲輪を廻らし、北側に階段状曲輪を配している。西郭の背後は堀切で遮断し、さらに西側の尾根上に二つめの堀切が間隔を置いて配されている。堀切は西郭に接するものが幅9.71mで高さが2.6m、さらに西側のものが幅5.5mで高さが1.5mである。





第 11 図 武道作山館略図



武道作山館 東郭山頂（西より）



武道作山館 東郭頂にある幅 2 m の窪地



武道作山館 東郭と西郭の境となる谷（東より）



武道作山館 西郭山頂（北西より）

3 北館

(1) 調査日 令和3年4月6日

(2) 調査場所 南陽市宮内字白山堂、梅ヶ沢山、武道作山 ほか

(3) 調査目的

対象地は、縄張り図作成時に踏査は実施済みであるが、航空レーザー測量の赤色立体地図によって確認された遺構の現況と、遺跡台帳整備のために踏査を行う。

(4) 調査方法及び内容

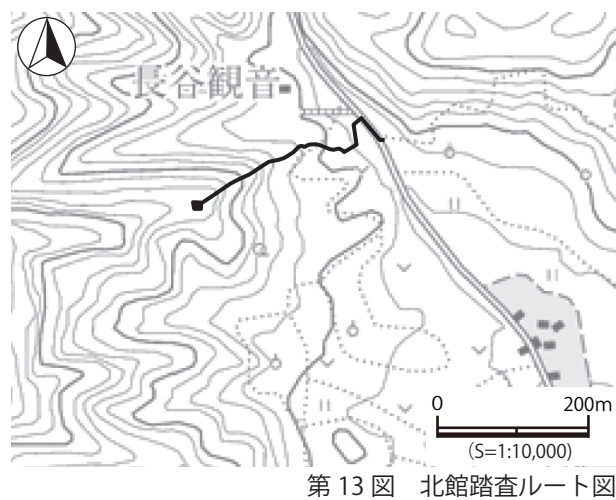
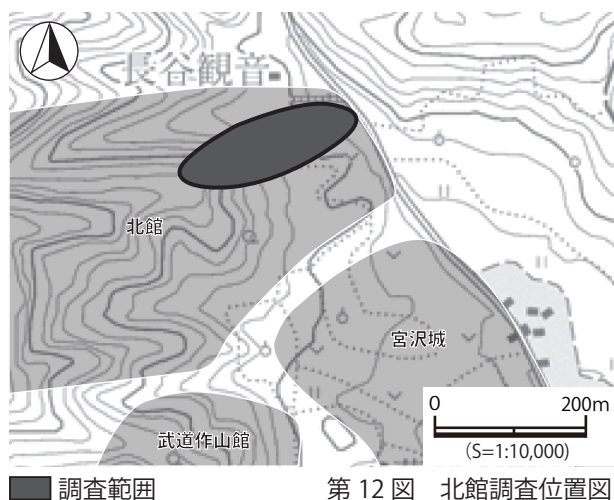
赤色立体地図を元に、写真撮影を行いながら踏査する。

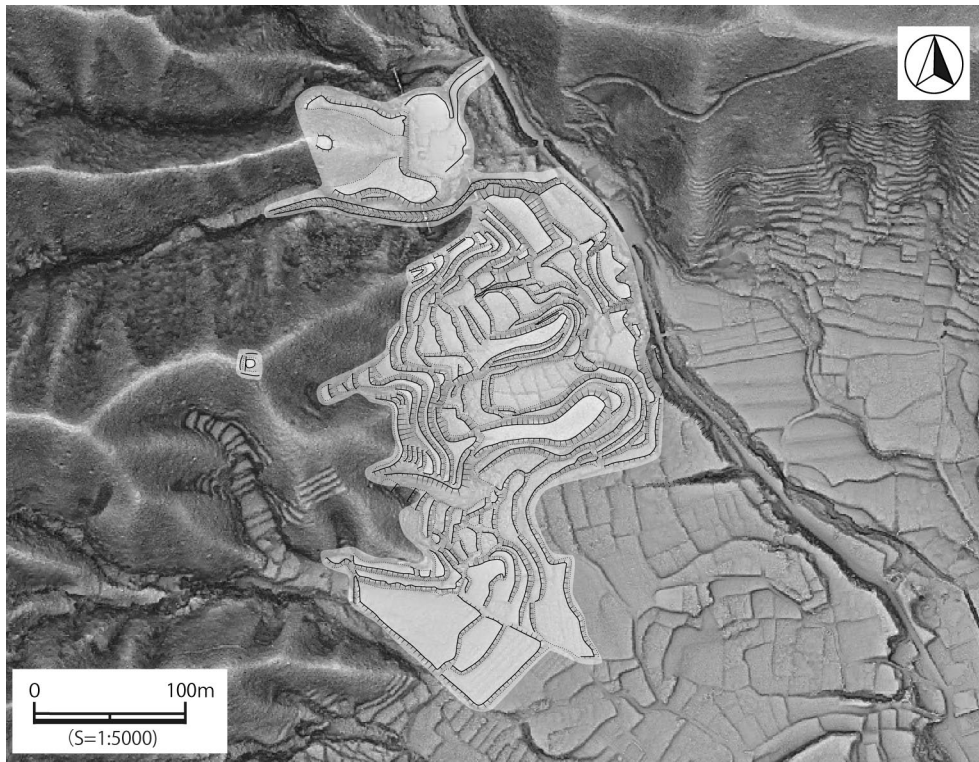
(5) 結 果

北館は、武道作山・梅ヶ沢山から東へ延びる4つ枝尾根と丘陵にそれぞれ曲輪群を配する。踏査は最も北の枝尾根で実施した。

尾根の東側斜面には広く開けた曲輪が二段とそれに伴う高い切岸があり、尾根東端の曲輪群はそれぞれ谷部を巡る帯状の曲輪に続く地形をとる。東端の曲輪群を抜けると東西に長い曲輪を挟んで、三段の曲輪を配している。そこから南側の谷部には広い曲輪と谷部内を巡る帯状の曲輪を階段状に配している。

曲輪群から120mほど西に進んだ尾根上に、上部が窪地状に落ち込んだ円形のマウンド状地形を確認した。これの西側には幅5.94m、深さ1.42mの溝状遺構があり、また周囲には、溝に続いて円形の形に沿うように一段テラス帯が巡っている。かつての調査ではここまで館の範囲としていたが、このマウンド状地形は経塚等の遺構である可能性が考えられる。





第 14 図 北館略図



北館 北枝尾根の3段続く曲輪（北東より）



北館 南側谷部のテラス帯（北西より）



北館 円形の遺構上にある窪地（経塚関連か）



北館 尾根東端の曲輪群の切岸（南より）

4 日影館

(1) 調査日 令和3年4月7日

(2) 調査場所 南陽市元中山字日影

(3) 調査目的

航空レーザー測量の赤色立体地図によって日影館跡の背後に山城があることが明らかになったことから、遺構の現況と遺跡台帳整備のために踏査を行う。

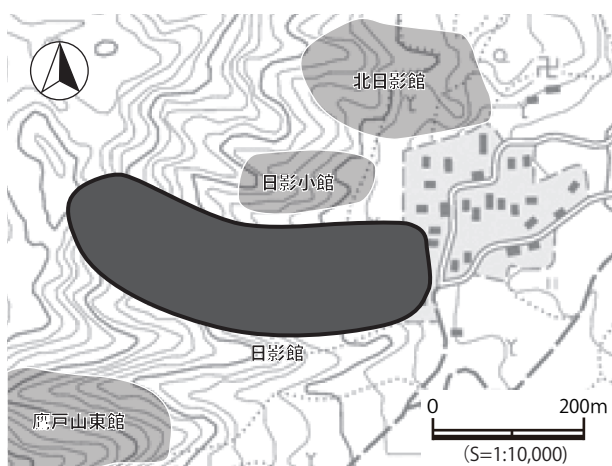
(4) 調査方法及び内容

赤色立体地図を元に、写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 結 果

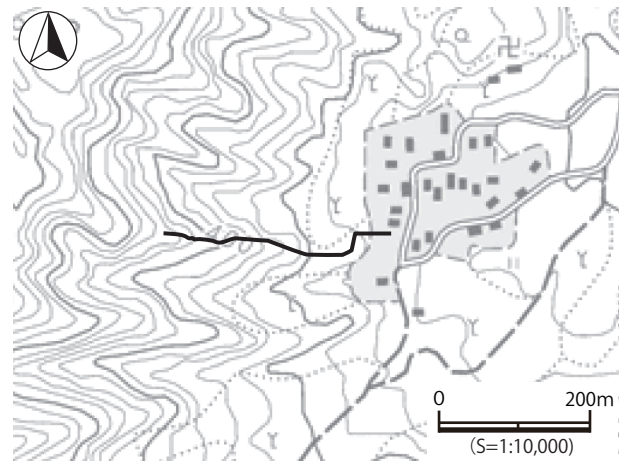
日影館は、鷹戸山北東の小盆地、日影地区の西の山地から延びる尾根上に位置する。従来の館跡はこの尾根端の方形の丘の上を主郭とみなす。今回新たに見つかった山城部は、館跡からさらに西方の尾根上に位置する。

松尾神社跡から尾根を西に進むと、東に向かって二つに分かれた枝尾根にあたり、谷部と尾根上に曲輪を配している。尾根の合流地点から西に約70m地点に、曲輪と高さ3.17mの切岸を配している。切岸を越えると主郭手前まで、平坦地と平坦地上に小曲輪が連続で続く。主郭周辺は急峻な地形となり、複数の小曲輪と帯曲輪が配されている。主郭は東西に約30mで、東・西端に1段下がる曲輪を配している。西端の曲輪には土塁状の高まりを確認した。主郭西側の堀切は事前の縄張り図では二重堀切としていたが、堀切は1つで、対岸に小さいテラス帯を配する地形であることを確認した。堀切は幅6.65mで深さ1.9m、主郭側が高く対岸のテラスは低い。その他、踏査で確認できた遺構を含めて縄張り図を修正した。

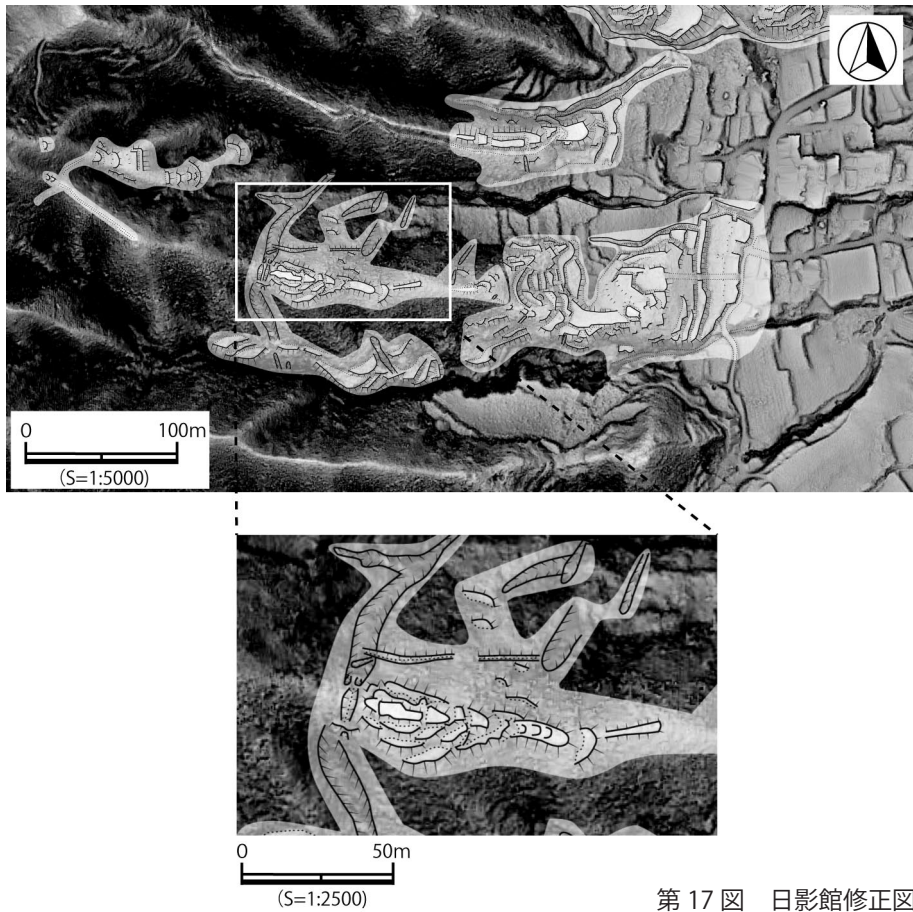


■ 調査範囲

第15図 日影館調査位置図



第16図 日影館踏査ルート図



第 17 図 日影館修正図



日影館 二つの尾根 尾根東端の曲輪 (南より)



日影館 主郭南東の小曲輪 (北東より)



日影館 主郭南の帯曲輪 (東より)



日影館 主郭西堀切前の高まり (南より)

5 大滝沢館

(1) 調 査 日 令和3年11月18日

(2) 調査場所 南陽市漆山字新山、屋敷浦、深沢、館ヶ沢、大滝沢、雪ヶ沢

(3) 調査目的

山頂に神社があり、また字館ヶ沢の地名が確認されたため、現況確認と遺跡台帳整備のために踏査を行う。

(4) 調査方法及び内容

地形図を元に写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 結 果

大滝沢館跡を新たに確認した。館跡から南北に延びる尾根頂は珍藏寺から700mくらいまでは自然地形で、途中曲輪の可能性のある地形がわずかにみられたが、支障木等によって確認は困難であった。最高所の南手前の尾根上は幅数mの平坦地となる。この平坦地を北に進むと急峻な斜面となり、最高所へ続く古い石段が確認できる。石段の途中で南に巡る帯曲輪と倒壊した石碑（詳細不明）が見られる。

最高所は平坦地となっており、虚空蔵様の石祠（天明八[1788年]戊申七月吉祥日）が一基置かれている。最高所から周辺に延びる尾根や斜面に曲輪が配されており、この最高所が主郭と思われる。

主郭の周囲を帯曲輪が巡り、主郭から北西と北東に延びる尾根上には階段状曲輪が配される。主郭南西方向にはやや緩い尾根が延びており、途中広い曲輪を二段、その先に堀切を配している。堀切は上端幅が約7m、下端幅が約2.2mをとる。堀切の先、西から北へ続く尾根は自然地形である。



大滝沢館 最高所東尾根の階段状曲輪



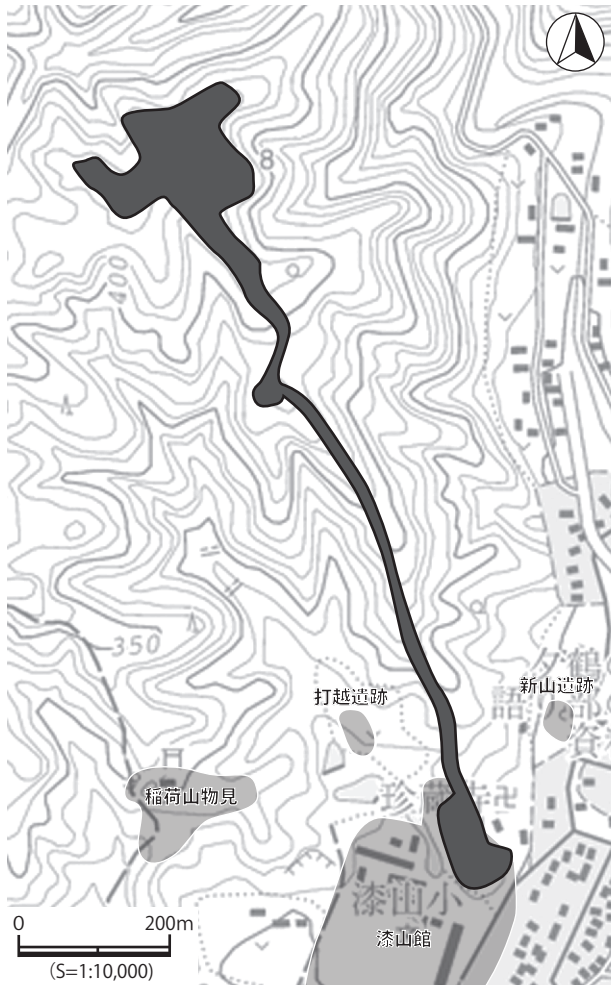
大滝沢館 西尾根北斜面曲輪（南西より）



大滝沢館 北尾根の曲輪から西に回る帯曲輪



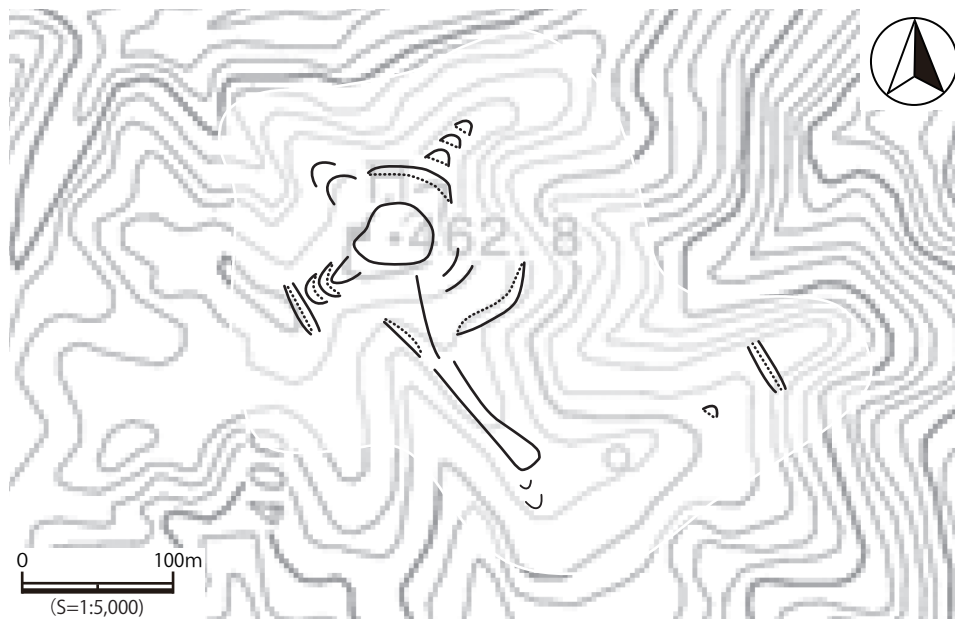
大滝沢館 最高所の石祠



■ 調査範囲 第18図 大滝沢館調査位置図



第19図 大滝沢館踏査ルート図



第20図 大滝沢館略図

※略側は行ってないため、目視によるメモから起こしたものと

III 試掘調査

1 長岡山東遺跡

- (1) 調査日 令和3年2月25日
- (2) 調査場所 南陽市長岡字西田中南 1505-1、1505-2、1503、1504
- (3) 調査原因 個人住宅建設（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は長岡山東遺跡の範囲に含まれる。北側は盛土のため試掘は実施せず、南側に1m四方の試掘穴を2か所設定し、試掘を実施した。

(5) 結果

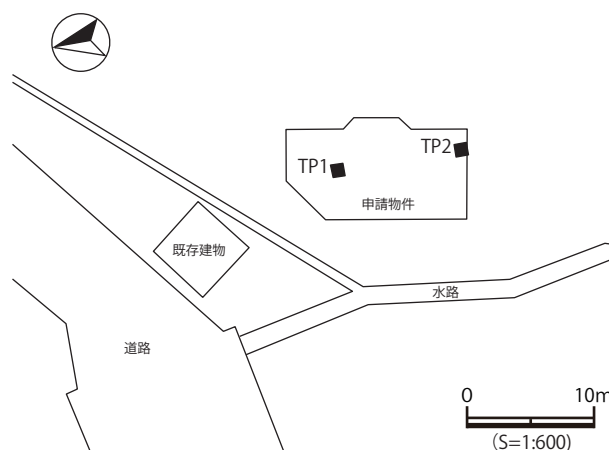
長岡山東遺跡は旧石器・縄文・古墳・平安時代の遺跡である。

土層は、地表面から約20cmで硬く締まる明黄褐色砂層に当たる。平成3年度の稲荷森古墳南側の市道改良工事に係る試掘の際には明褐色の砂層が検出され、その下にはグライ層が続き湿地又は河川による土層が見られている。

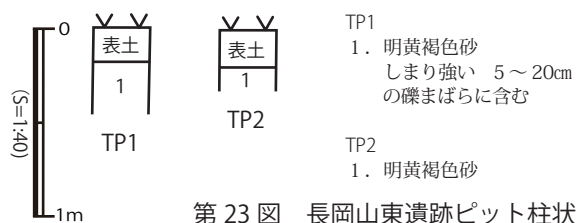
遺構・遺物は確認されなかった。



第21図 長岡山東遺跡調査位置図



第22図 長岡山東遺跡調査範囲図



第23図 長岡山東遺跡ピット柱状図



長岡山東遺跡 TP1 (北より)



長岡山東遺跡 TP2 (北より)



長岡山東遺跡 調査区全景 (北より)

2 蒲生田山古墳群

- (1) 調査日 令和3年3月18日
- (2) 調査場所 南陽市上野字山居沢 1855-22
- (3) 調査原因 個人住宅建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

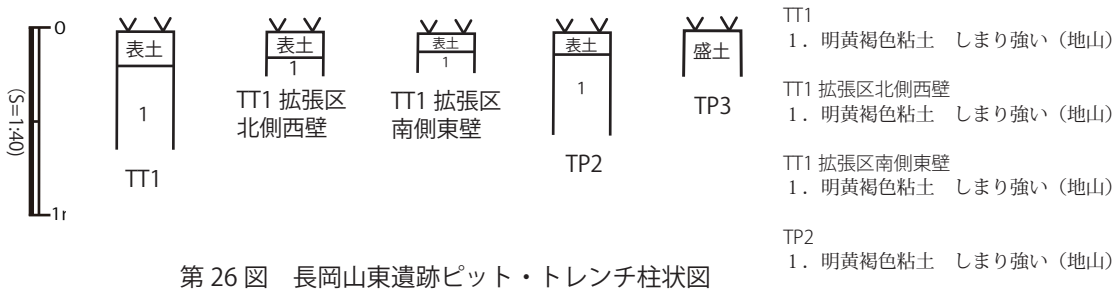
当該地は蒲生田山古墳群の範囲に含まれる。調査対象 141㎡に対して、幅 1 m×長 7 mの試掘溝(一部拡張して調査した)と 1 m四方の試掘穴を 2か所設定し、試掘を実施した。

(5) 結 果

蒲生田山古墳群は古墳・奈良時代の遺跡である。調査地は宮内扇状地北東部の段丘上に位置し、敷地東側と南側は低くなる。

土層は、TT1、TP2 は地表面から約 15cm で地山に達し、TT1 の東側ではその深さが 40cm となり、東へなだらかに低くなる。TP3 は盛土のみであり、敷地南側の大半は盛土が占める。

遺構・遺物は確認されなかった。





蒲生田山古墳群 調査区全景（北より）



蒲生田山古墳群 TT1（南東より）



蒲生田山古墳群 TT1 拡張区（南西より）



蒲生田山古墳群 TP2（南西より）



蒲生田山古墳群 TP3（南西より）

3 平野C遺跡

- (1) 調査日 令和3年4月13日
- (2) 調査場所 南陽市梨郷字平野 2712-2 ほか
- (3) 調査原因 土地造成（倉庫建設）（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

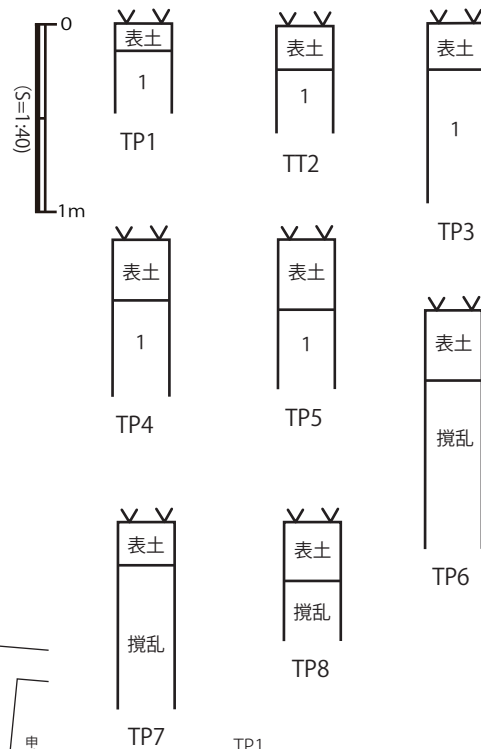
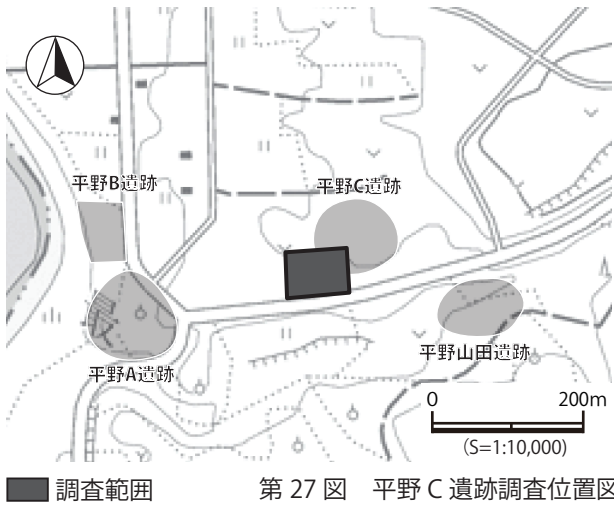
当該地は平野C遺跡の範囲に含まれる。調査対象範囲 6,221㎡に対して、1 m四方の試掘穴7か所と幅 1 m× 11 mの試掘溝1か所を設定し、試掘を実施した。

(5) 結 果

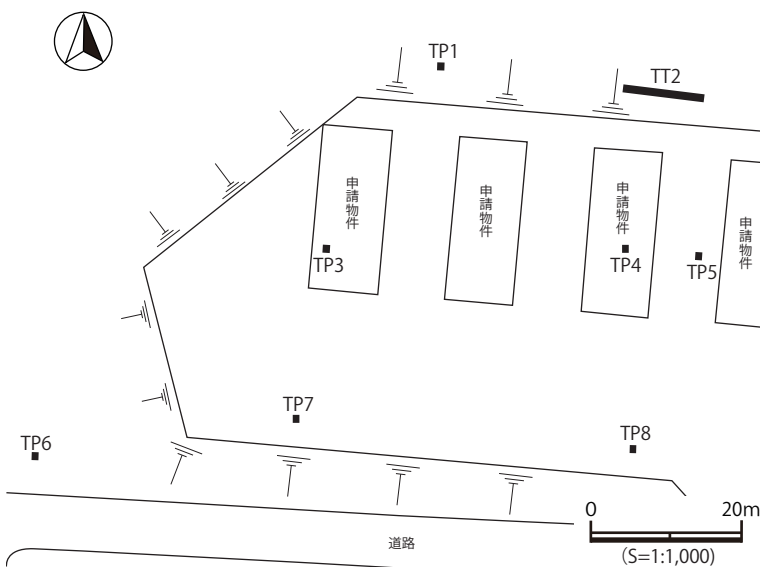
平野C遺跡は縄文時代の遺跡である。

土層は、TP1・TT2では地表面から約20cmで、TP3～TP5では約30cmで地山となる。TP6・TP5では表土の下から厚く攪乱層が続いていた。

遺構・遺物は確認されなかった。



- TP1
1. 灰黄色シルト
- TT2
1. 灰白色シルト
- TP3
1. 明黄褐色シルト粘土
- TP4
1. 明褐色砂質粘土
- TP5
1. 明黄褐色シルト粘土



第29図 平野C遺跡ピット・トレンチ柱状図



平野 C 遺跡 調査区全景 (東より)



平野 C 遺跡 TP1 (南より)



平野 C 遺跡 TT2 (東より)



平野 C 遺跡 TP3 (南より)



平野 C 遺跡 TP4 (南より)



平野 C 遺跡 TP5 (南より)



平野 C 遺跡 TP7 (南より)



平野 C 遺跡 TP8 (南より)

4 漆山字東寺町

- (1) 調査日 令和3年4月20日
- (2) 調査場所 南陽市漆山字東寺町 1227-2 ほか
- (3) 調査原因 土地造成（工場建設）
- (4) 調査方法及び内容

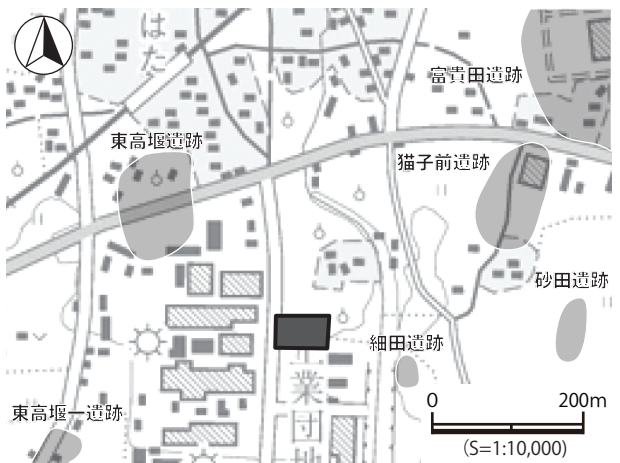
当該地は開発面積 1,000㎡を越えることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 2,483.52㎡に対して、測量杭を避けて幅 2 m×長 10m、幅 2 m×長 15m×2、幅 2 m×長 20mの試掘溝 4か所を設定し、試掘を実施した。

(5) 結果

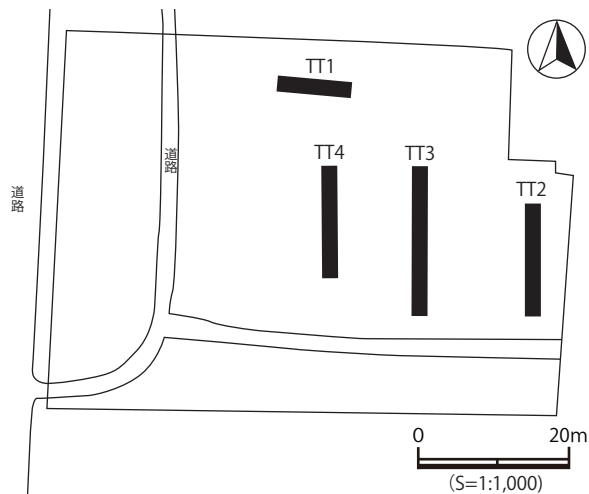
土層は、地表面から 50～60cm で遺物を含む攪乱層に当たり、60cm～80cm で灰黄褐色粘質砂層に当たる。TT2～TT4 では、表土層直下に洪水堆積層とみられる明黄褐色砂層を確認した。

遺物は、TT1～TT4 で 140 点余り出土した。TT1・TT4 では表土層及び黒色砂質粘土層から、TT2・TT3 の遺物は洪水堆積層から出土した。土師器、須恵器が混在し、古代の遺物が主体を占める。

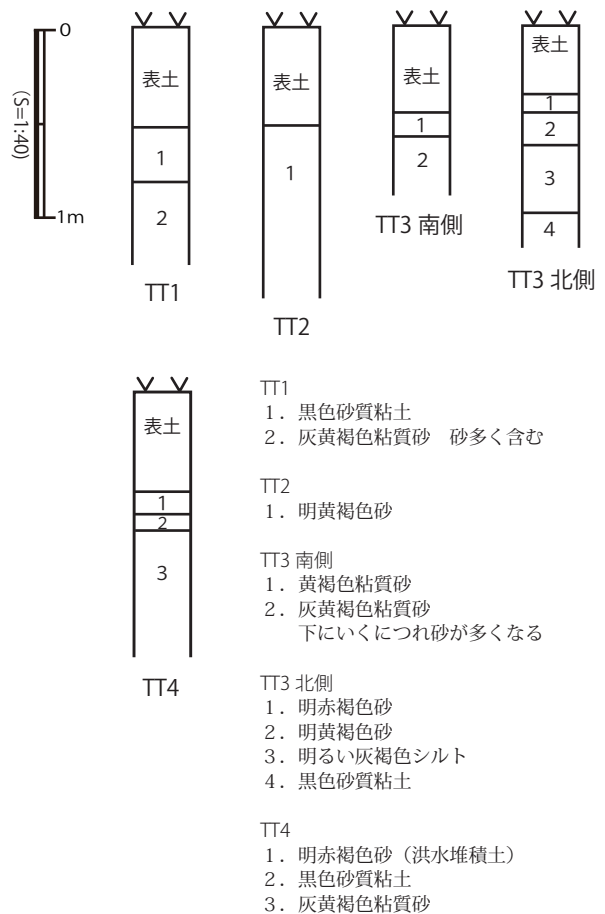
遺構は確認されなかった。



第 30 図 漆山字東寺町調査位置図



第 31 図 漆山字東寺町調査範囲図



第 32 図 漆山字東寺町トレンチ柱状図



漆山字東寺町 調査区全景 (北東より)



漆山字東寺町 TT1 (東より)



漆山字東寺町 TT2 (北より)



漆山字東寺町 TT3 (南より)



漆山字東寺町 TT4 (北より)

5 矢ノ目館跡

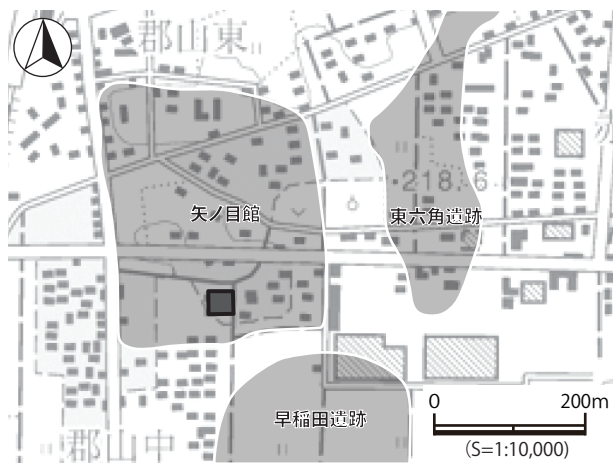
- (1) 調査日 令和3年5月26、27日
- (2) 調査場所 南陽市郡山字砂原981
- (3) 調査原因 個人住宅建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

当該地は矢ノ目館跡の範囲に含まれる。調査対象範囲 885.37㎡に対して、幅 1.5m×長 10mの試掘溝を設定した。

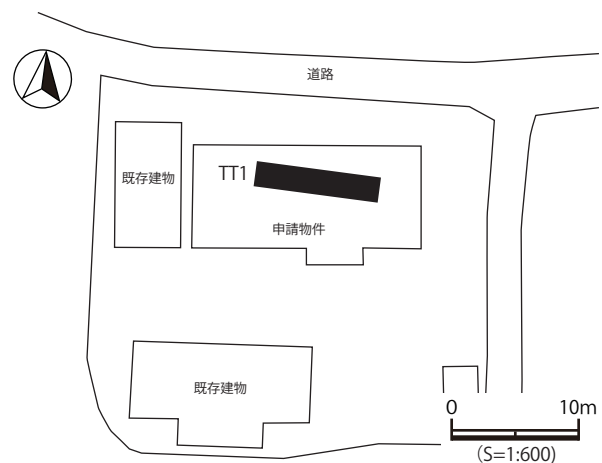
(5) 結果

矢ノ目館跡は、古代の置賜郡衙関連遺跡でもある。調査地は、矢ノ目館跡の主郭にあたる。遺構は、表土下 70～80cm において溝跡 3 条、ピット 9 か所を検出した。

遺物は、古代の須恵器・土師器が出土した。



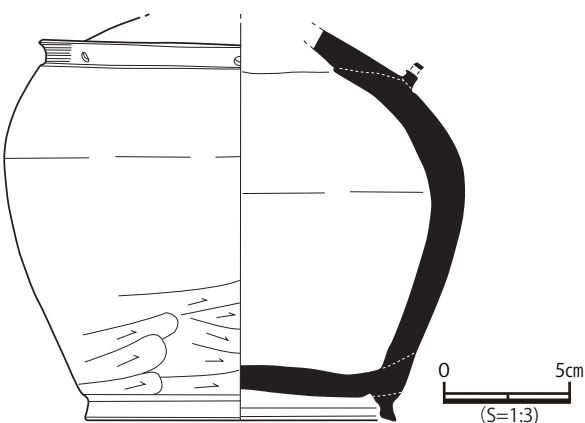
第33図 矢ノ目館跡調査位置図



第34図 矢ノ目館跡調査範囲図



第35図 矢ノ目館跡トレンチ柱状図



第36図 矢ノ目館跡 SD2 出土遺物実測図



矢ノ目館跡 調査区全景(東より)



矢ノ目館跡 TT1 (東より)



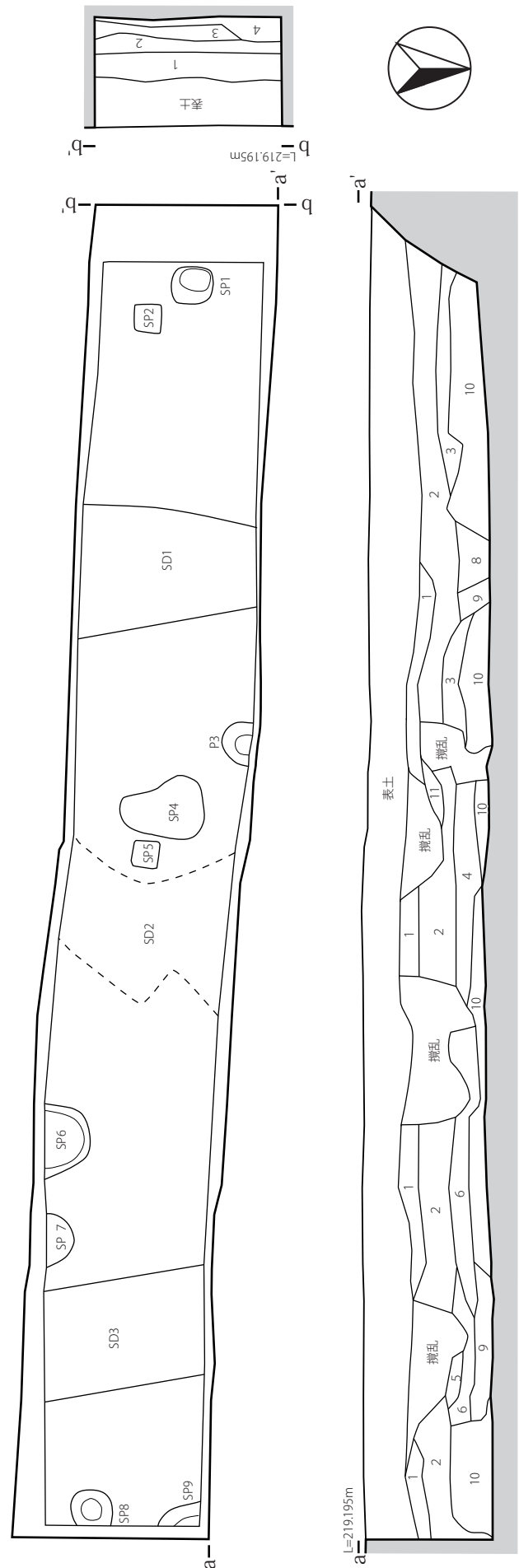
矢ノ目館跡 SD2 遺物出土状況 (東より)

TT1 a-a'

1. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土
2. 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土
3. 10YR2/2 黒褐色粘土
4. 10YR4/2 灰黄褐色粘土
5. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 (くすむ)
6. 10YR5/1 褐灰色粘土
7. 7.5Y5/1 灰色シルト粘土 炭化物含む
8. 7.5Y5/1 灰色シルト粘土 (少し暗い)
9. 5B6/1 青灰色シルト粘土
10. 10YR5/2 灰黄褐色粘土
11. 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土 灰黄褐色粘土含む

TT1 b-b'

1. 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土
2. 10YR2/2 黒褐色粘土
3. 10YR4/1 褐灰色粘土
4. 10YR5/2 灰黄褐色粘土



第37図 矢ノ目館跡トレンチ平面図・断面図

6 長岡山東遺跡

- (1) 調査日 令和3年7月27日
- (2) 調査場所 南陽市長岡字北田 580 ほか
- (3) 調査原因 宅地造成 (93 条届)
- (4) 調査方法及び内容

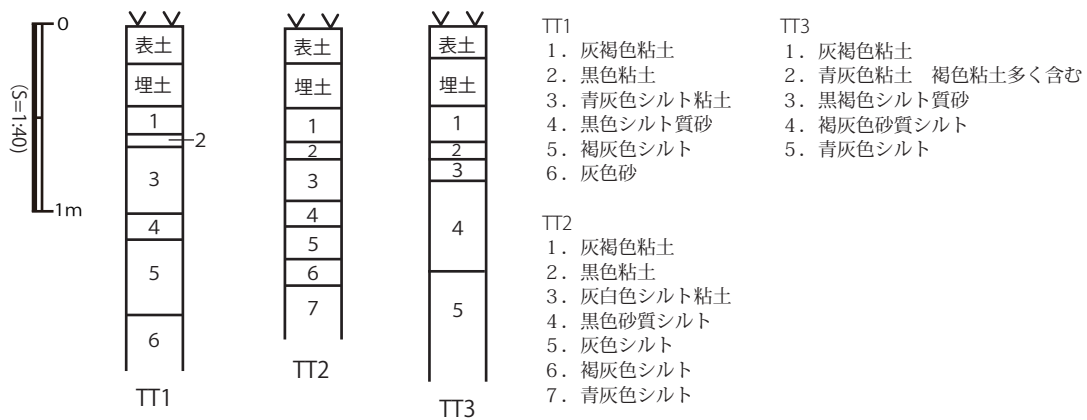
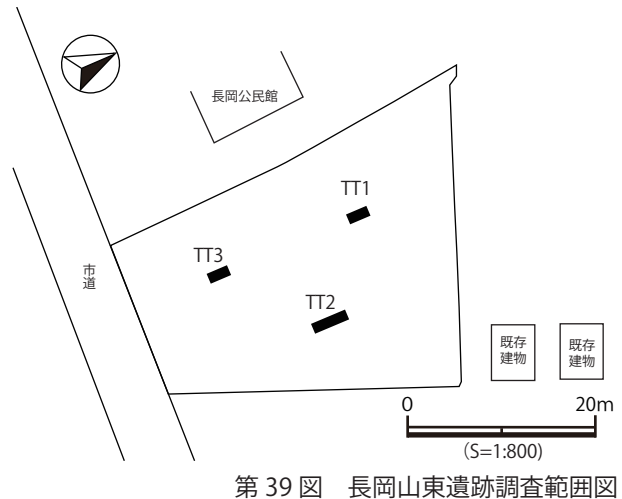
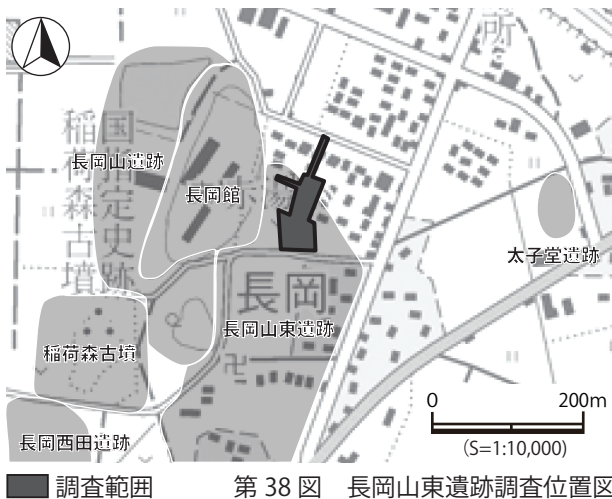
当該地は長岡山東遺跡の範囲に含まれる。調査対象範囲 2,283.15㎡に対して、既存建物がない南側のみ実施した。幅 1.5m×長 5 mの試掘溝を 1 か所、幅 1.5 m×長 3 mの試掘溝を 2 か所設定した。

(5) 結果

長岡山東遺跡は旧石器・縄文・古墳・平安時代の遺跡である。

土層は、地表面から 42cm で水田耕作土層と思われる粘土層を挟み、地表面から約 70cm ~ 90cm で黒色シルト質砂層に当たる。黒色層以下は湿地性の灰色シルト層が続く。

遺構・遺物は確認されなかった。



第 40 図 長岡山東遺跡トレンチ柱状図



長岡山東遺跡 調査区全景（南東より）



長岡山東遺跡 TT1（南より）



長岡山東遺跡 TT2（南より）



長岡山東遺跡 TT3（南より）

7 割田館跡

- (1) 調査日 令和3年8月10日
- (2) 調査場所 南陽市竹原字酒町二 270 ほか
- (3) 調査原因 個人住宅建設（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は割田館の範囲に含まれる。調査対象範囲 188㎡に対して、1 m四方の試掘穴を2か所設定した。

(5) 結果

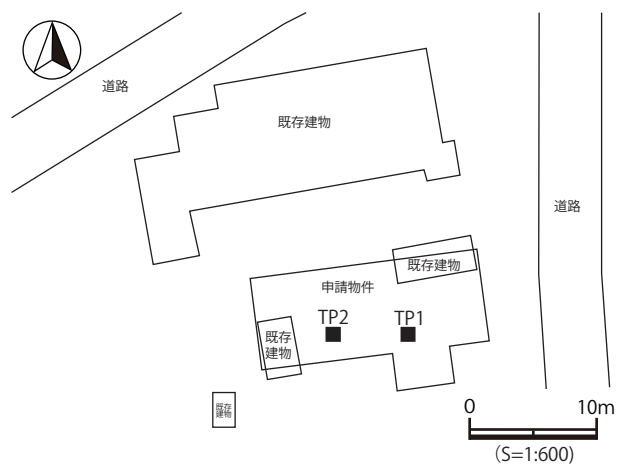
土層は、厚い盛土層を挟み地表面から 50～70cm で黒色砂質粘土層に当たる。さらに130cm 程度でにぶい黄褐色粘質砂層を検出した。

遺物は、盛土層から新しい陶器片等が出土した。

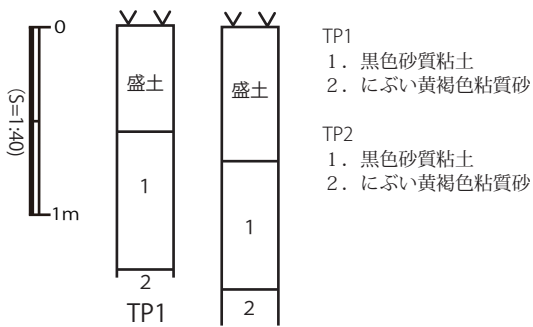
遺構は確認されなかった。



第 41 図 割田館跡調査位置図



第 42 図 割田館跡調査範囲図



第 43 図 割田館跡ピット柱状図



割田館跡 TP1 (南より)



割田館跡 TP2 (南より)



割田館跡 調査区全景 (北東より)

8 馬場遺跡隣地

- (1) 調査日 令和3年9月7日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字一本杉三 1044-1 ほか
- (3) 調査原因 店舗建設
- (4) 調査方法及び内容

当該地は馬場遺跡の東側隣地であることから、遺跡の広がり把握するため調査を行った。調査対象範囲 3,381.18㎡に対して、北と南側の空き地部分で試掘を実施し、幅 1.5m × 長 10m の試掘溝を 2 か所設定した。

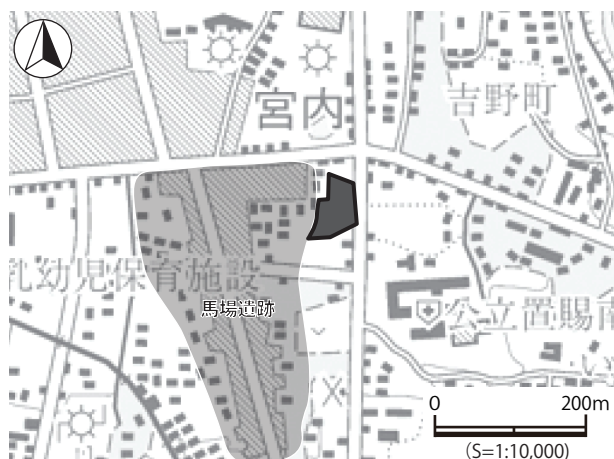
(5) 結果

馬場遺跡は中世の馬場跡の遺跡、あるいは館跡である。

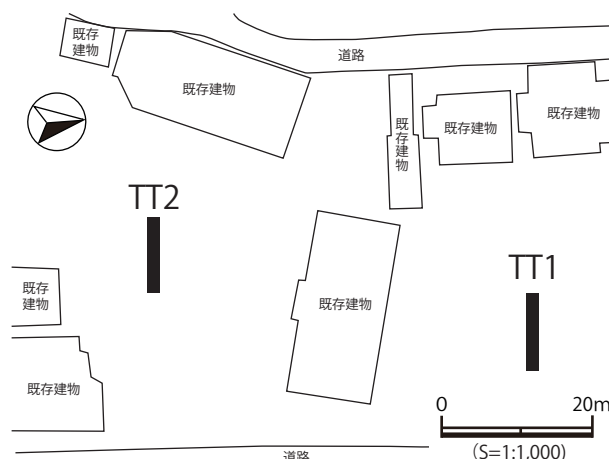
TT1 の土層については、地表面から約 100cm ~ 130cm は後世の埋め土で、それ以下は河川堆積層と思われる。

TT2 の土層については、地表面から約 60cm ~ 70cm は後世の埋め土である。それ以下は河川堆積層で、東側は水田耕作層と思われる褐灰色粘土層が 120cm まで見られた。

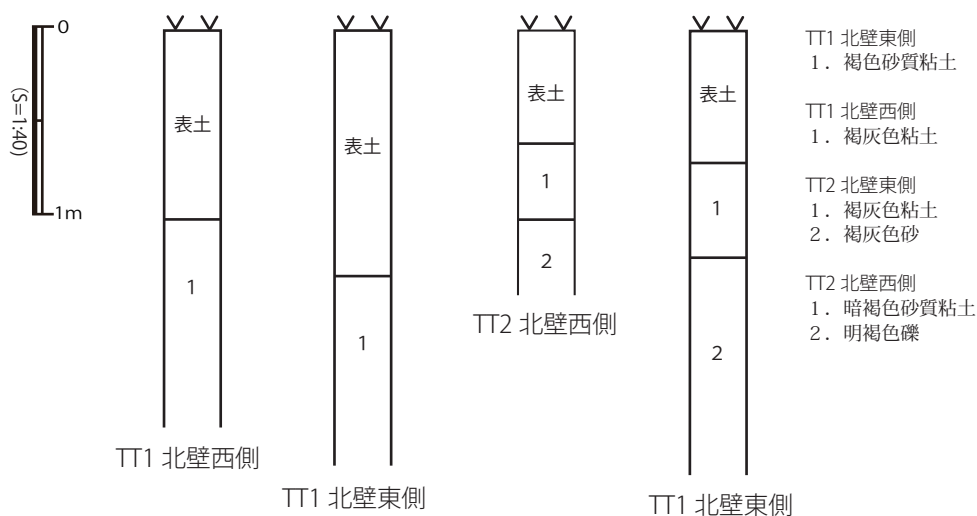
遺構・遺物は確認されず、遺跡範囲外であると思われる。



第 44 図 馬場遺跡隣地調査位置図



第 45 図 馬場遺跡隣地調査範囲図



第 46 図 馬場遺跡隣地トレンチ柱状図



馬場遺跡隣地 TT1 掘削前 (西より)



馬場遺跡隣地 TT1 (東より)



馬場遺跡隣地 TT2 掘削前 (東より)



馬場遺跡隣地 TT2 (東より)

9 三間通字諏訪西

- (1) 調査日 令和3年10月14日
- (2) 調査場所 南陽市三間通字諏訪西 407-2
- (3) 調査原因 宅地造成
- (4) 調査方法及び内容

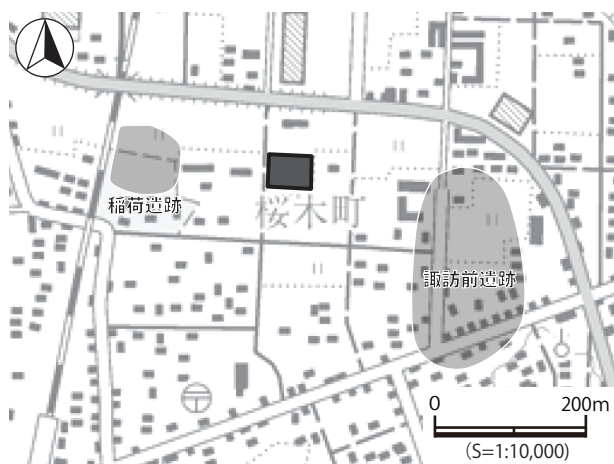
当該地は開発面積 1,000㎡を超えることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 2,547㎡に対して、1 m四方の試掘穴を4か所設定した。

(5) 結果

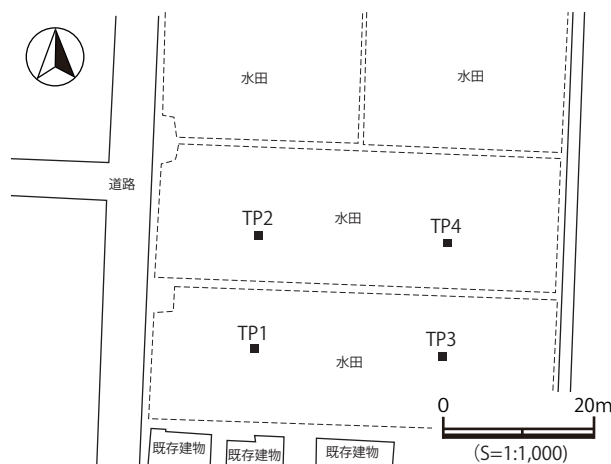
TT1の土層については、地表面から約100cm～130cmは後世の埋め土で、それ以下は河川堆積層と思われる。

調査地は、宮内扇状地の扇端東南、吉野川右岸の後背湿地に位置する。

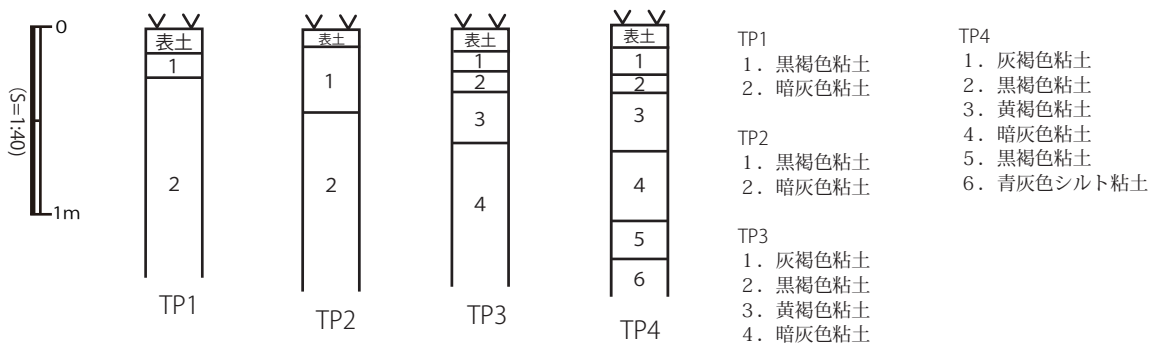
遺構・遺物は確認されなかった。



第47図 三間通字諏訪西調査位置図



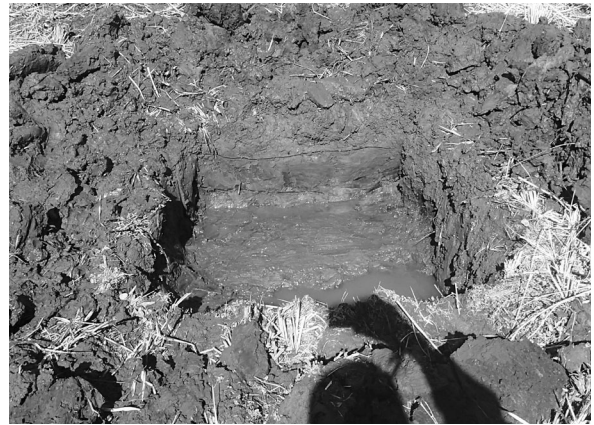
第48図 三間通字諏訪西調査範囲図



第49図 三間通字諏訪西ピット柱状図



三間通字諏訪西 調査地全景（北西より）



三間通字諏訪西 TP1（南より）



三間通字諏訪西 TP2（南より）



三間通字諏訪西 TP3（南より）



三間通字諏訪西 TP4（北より）

10 矢ノ目館跡

- (1) 調査日 令和3年10月18日
- (2) 調査場所 南陽市郡山字北的906-1
- (3) 調査目的 車庫建設(93条届)
- (4) 調査方法及び内容

当該地は矢ノ目館跡の範囲に含まれる。調査対象範囲 751.35㎡に対して、車庫新設予定地の畑跡部分で試掘を実施し、1m四方の試掘穴を1か所設定した。

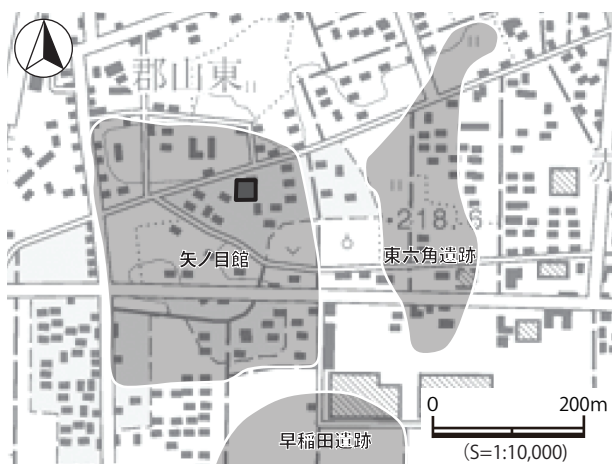
(5) 結果

矢ノ目館は・奈良・平安・中世の遺跡である。

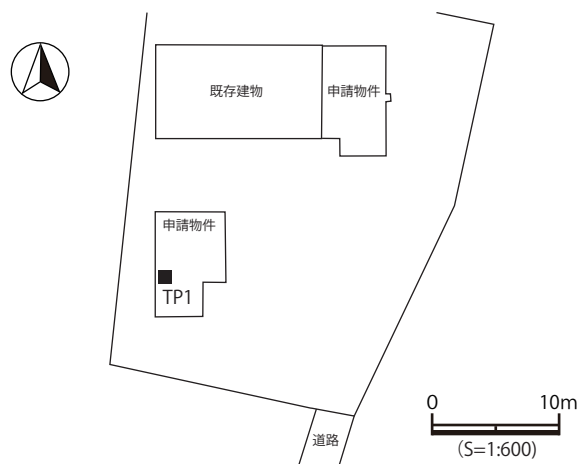
土層は、表土層の下に厚い攪乱を挟み、地表面から68cmで黒褐色粘質砂層を検出し、その下の80cmで遺構面と思われる暗灰黄色粘質砂層に当たる。

遺物は、攪乱と黒褐色層で土師器片が5点出土したが、流れ込みと思われる。

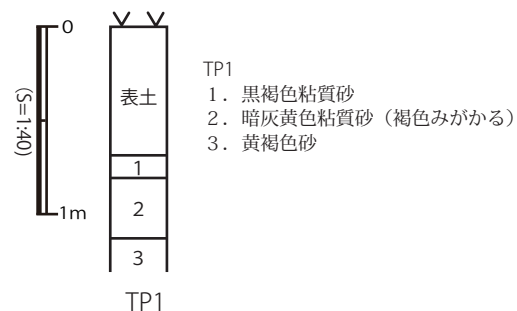
遺構は確認されなかった。



第50図 矢ノ目館跡調査位置図



第51図 矢ノ目館跡調査範囲図



第52図 矢ノ目館跡ピット柱状図



矢ノ目館跡 TP1 (北より)



矢ノ目館跡 調査区全景 (北より)

11 柵塚字中谷地

- (1) 調査日 令和3年10月25日
- (2) 調査場所 南陽市柵塚字中谷地一 432-2、433-3、433-4、453-4、456-5
- (3) 調査目的 宅地造成
- (4) 調査方法及び内容

当該地は開発面積 1,000㎡を超えることから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 2,231.24㎡に対して、1 m四方の試掘穴を6か所設定した。

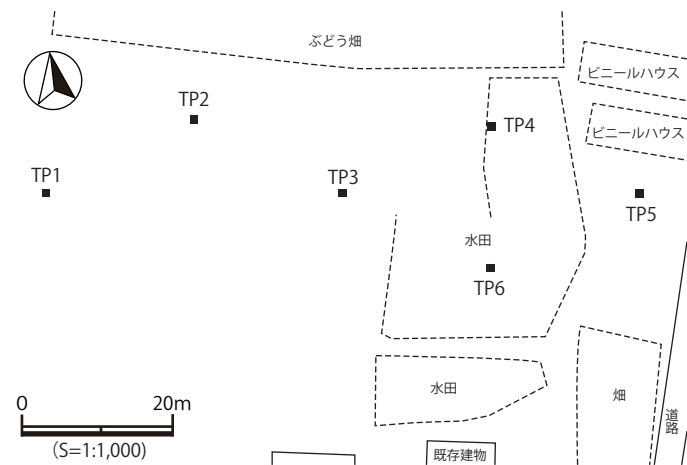
(5) 結 果

層位は、TP1 は表層の下が砂利敷きになっており、手掘りでは困難であったため砂利敷きの面で止めた。TP2、TP3 では褐色層の下に褐灰色層を挟み、下層に行くにつれ砂層になる。TP5 は TP2、TP3 と同様に褐色層の下に褐灰色層を挟むが、地表面から 52cm で砂礫層になる。T4、T6 では表土層の下に攪乱層を挟み、地表面から 50cm ～ 70cm で黒褐色層に当たる。調査区では湿地性の層が確認された。

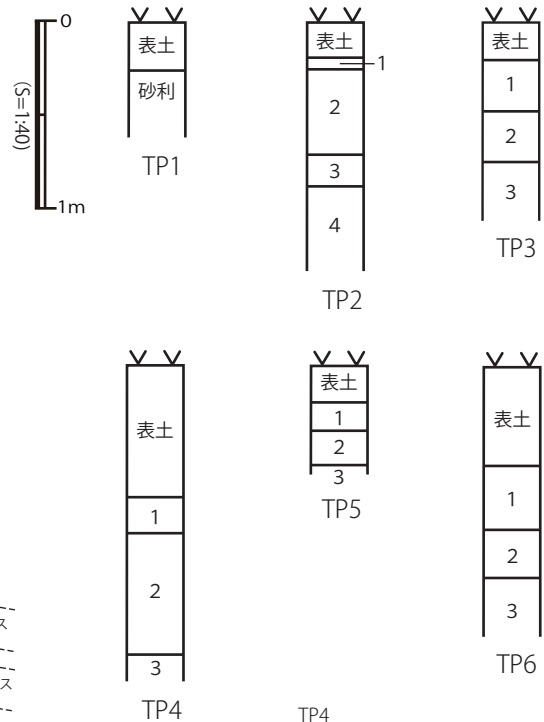
遺構・遺物は確認されず、字名の中谷地からも湿地であったと考えられ、今次結果からも遺跡がある可能性は低いと思われる。



第 53 図 柵塚字中谷地調査位置図



第 54 図 柵塚字中谷地調査範囲図



- TP2
 - 1. 褐色砂質粘土
 - 2. 褐灰色砂質シルト
 - 3. 暗灰色シルト
 - 4. 青灰色砂質シルト
- TP3
 - 1. 褐色砂質粘土
 - 2. 褐灰色砂質シルト
 - 3. 黄褐色砂

- TP4
 - 1. 黒褐色シルト粘土 (灰色がかる)
 - 2. 褐灰色砂
 - 3. 暗灰色シルト粘土 (暗い)
- TP5
 - 1. 褐色砂質粘土
 - 2. 褐灰色砂質粘土
 - 3. 暗灰色砂礫
- TP6
 - 1. 黒褐色粘土
 - 2. 黒色シルト粘土
 - 3. 暗灰色シルト

第 55 図 柵塚字中谷地ピット柱状図



柵塚字中谷地 調査区全景 (西より)



柵塚字中谷地 TP1 (北より)



柵塚字中谷地 TP2 (南より)



柵塚字中谷地 TP3 (北より)



柵塚字中谷地 TP4 (北より)



柵塚字中谷地 TP5 (北より)



柵塚字中谷地 TP6 (北より)

12 東六角遺跡

- (1) 調査日 令和3年11月18日
- (2) 調査場所 南陽市三間通字西蔵田 153-5
- (3) 調査目的 個人住宅建設（93条届）
- (4) 調査方法及び内容

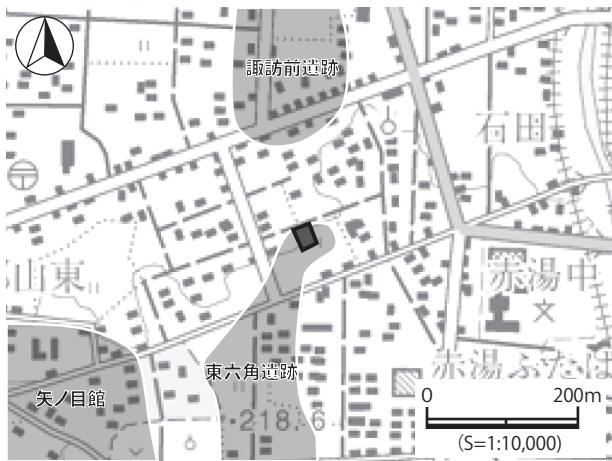
当該地東六角遺跡範囲内に範囲に含まれる。調査対象範囲 450.06㎡に対して、1m四方の試掘穴を2か所設定した。

(5) 結 果

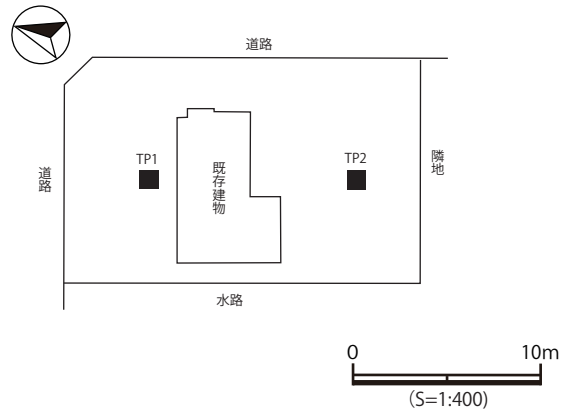
東六角遺跡は縄文・中世の遺跡である。

土層は、地表面から115cm程度まで盛土であり、それ以下は水田盤土層と思われる青灰色粘土層を厚さ10cm～20cmほど挟み、暗褐色粘土層に当たる。この暗褐色層が遺構面と考えられる。

遺構・遺物は確認されず、土層からも後背湿地であったと思われる。



第56図 東六角遺跡調査位置図

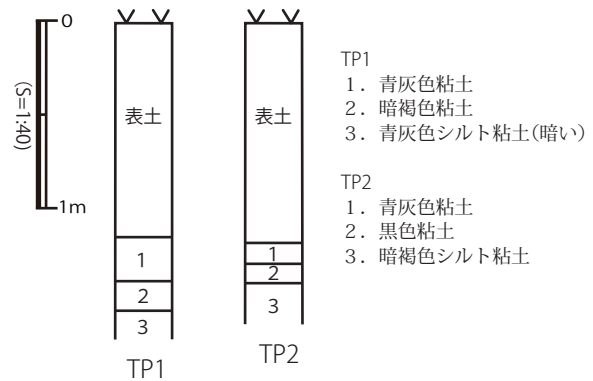


第57図 東六角遺跡調査範囲

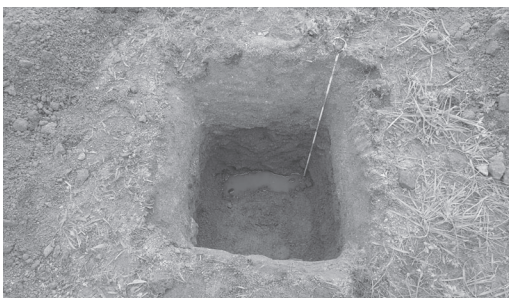
■ 調査範囲



東六角遺跡 調査区全景（北東より）



第58図 東六角遺跡ピット柱状図



東六角遺跡 TP1（北より）



東六角遺跡 TP2（北より）

IV 立会調査

1 南陽市内携帯電話無線基地局（4か所）

(1) 調査日・場所

- ①宮内字湯街道二 令和3年1月13日 南陽市宮内字湯街道二 325-1
- ②長岡山東遺跡 令和3年2月16日 南陽市長岡西田中南四 634-3（93条届）
- ③小岩沢遺跡 令和3年4月28日 南陽市小岩沢字水上 1541-1（93条届）
- ④中屋敷遺跡隣地 令和3年5月24日 南陽市若狭郷屋字中屋敷 485

(2) 調査原因 無線基地局設置

(3) 調査方法及び内容 掘削範囲が狭小のため、立会工事を行うものとした。

(4) 結果

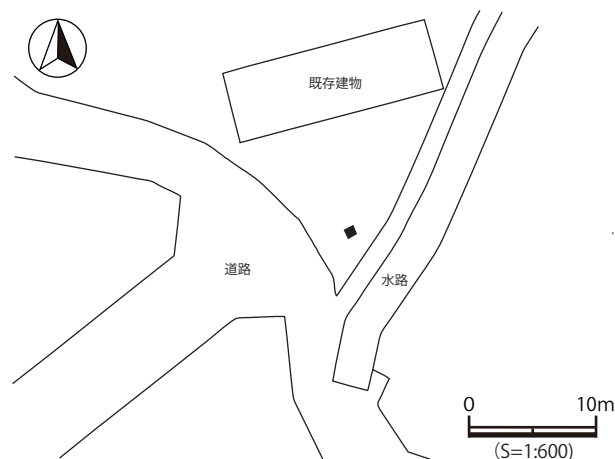
①宮内字湯街道二

土層は、地表から50cmまでは攪乱層で、50cm以下は灰褐色砂層、79cm以下は黄褐色砂層となり、これらの砂層は5cm～20cm程度の礫を多量に含む。下層では青灰色の砂礫層が見られ、これは氾濫原性の層と思われる。

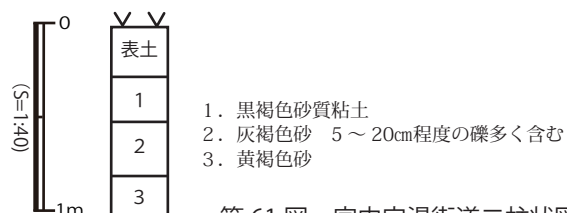
遺構・遺物は確認されなかった。



第59図 宮内字湯街道二調査位置図



第60図 宮内字湯街道二調査掘削位置図



第61図 宮内字湯街道二柱状図



宮内字湯街道二 掘削状況（南より）



宮内字湯街道二 掘削孔（西より）

②長岡山東遺跡

地表面から約0.8 mで黒褐色粘土層、約1.2mで灰色砂質シルト層を検出した。灰色砂質シルト層より下層は、目視での確認はできなかったが、約2～3 mの掘削土からは、植物遺存体を含む灰色砂質シルト層があることを確認した。

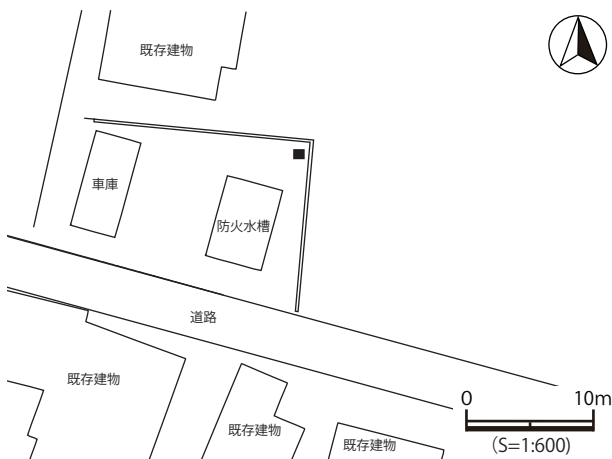
遺構・遺物は確認されなかった。



調査範囲 第62図 長岡山東遺跡調査位置図



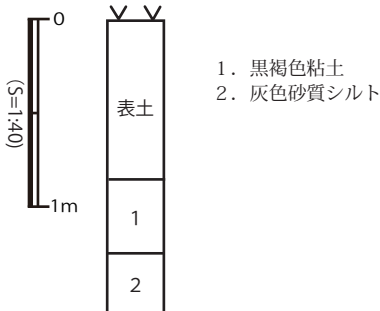
長岡山東遺跡 掘削状況 (南より)



第63図 長岡山東遺跡調査掘削位置図



長岡山東遺跡 掘削坑 (南より)



- 1. 黒褐色粘土
- 2. 灰色砂質シルト

第64図 長岡山東遺跡柱状図

③小岩沢遺跡

土層は地表面から 35cm で黒褐色砂質粘土層にあたり、70cm で明黄褐色砂質粘土の地山層にあたり、1～2 m の間で 20cm 程度の礫を含むに砂礫層あたる。砂礫層は 3 m 下まで続く。

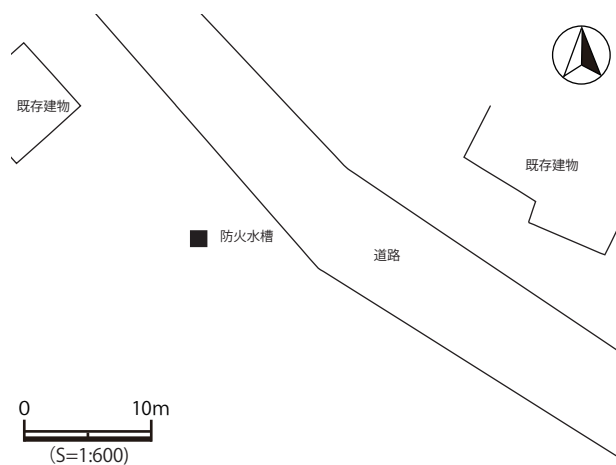
遺構・遺物は確認されなかったが、小岩沢公民館東側の畑で踏査を行ったところ、縄文土器と石鏃を表面採取した。



第 65 図 小岩沢遺跡調査位置図



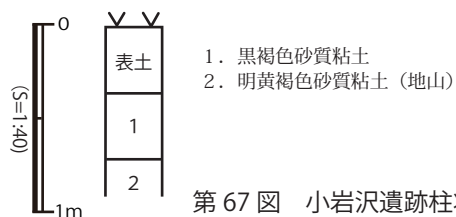
小岩沢遺跡 掘削状況



第 66 図 小岩沢遺跡調査掘削位置図



小岩沢遺跡 掘削坑 (南より)



第 67 図 小岩沢遺跡柱状図

④中屋敷遺跡隣地

1.3 mまで手掘りで掘削し、それ以降は建柱車で3 mまで掘削を実施した。

土層は地表面から30cmで黄褐色砂質粘土層、1 mで黒褐色砂質粘土層、2～3 mの間で15cm程度の礫を含む砂礫層にあたる。なお湧水が多かったため、1.3 m以下の深さは推定である。

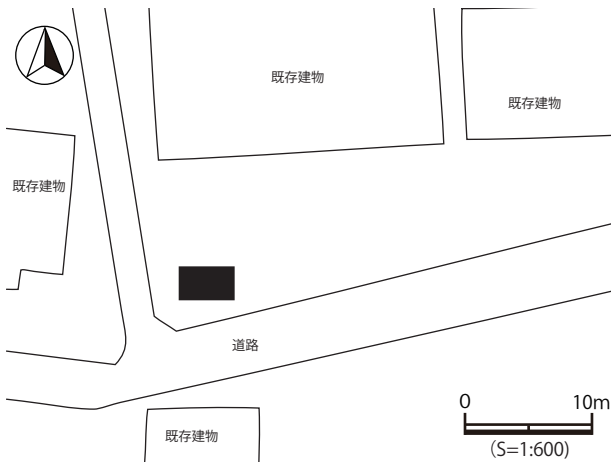
遺構・遺物は確認されなかった



調査範囲 第68図 中屋敷遺跡隣地調査位置図



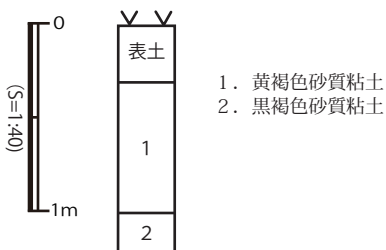
中屋敷遺跡隣地 掘削状況



第69図 中屋敷遺跡隣地掘削位置図



中屋敷遺跡隣地 掘削坑



第70図 中屋敷遺跡隣地柱状図

2 久根崎遺跡隣地

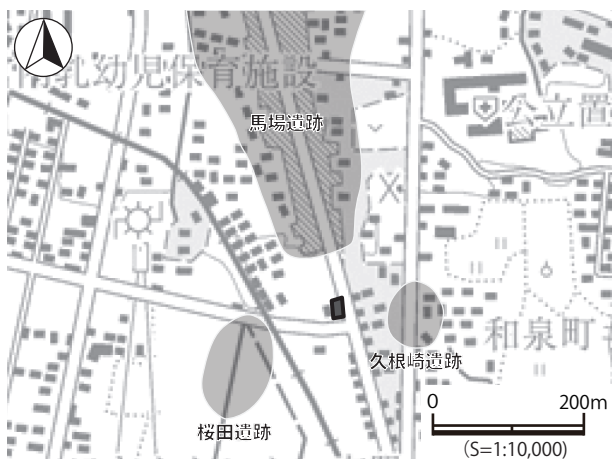
- (1) 調査日 令和3年1月13、14日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字久根崎 419-8
- (3) 調査原因 防火水槽工事
- (4) 調査方法及び内容

当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲にはかからないが、北側に馬場遺跡（中世）と東側に久根崎遺跡（縄文）があり、遺跡範囲確認のため工事立会を行うものとした。調査対象範囲約50㎡に対して、シーティング工法により約3.5mまで掘削を行うことから、土層状況及び掘削排土に遺物が含まれないか確認を行った。

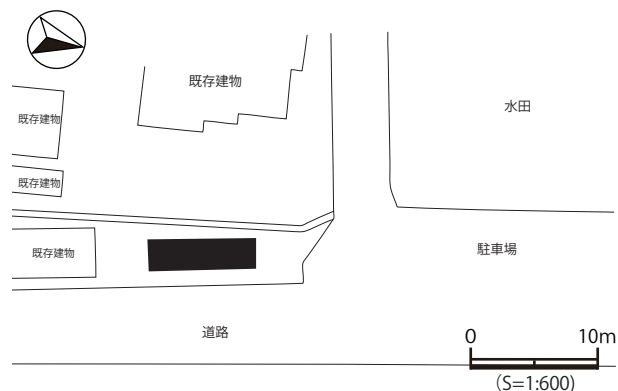
(5) 結果

南壁は地表面から約170cmが盛土で、一部廃材が確認された。盛土以下は灰色シルト質砂層である。掘削土から遺物は確認されなかった。北壁は地表面から厚い盛土を挟み、182cmで黄褐色シルト質砂層を検出し、以下灰色の砂層が続いていく。後背湿地性の層が確認でき、馬場遺跡と久根崎遺跡の立地する自然堤防は調査地まで続いていると思われる。

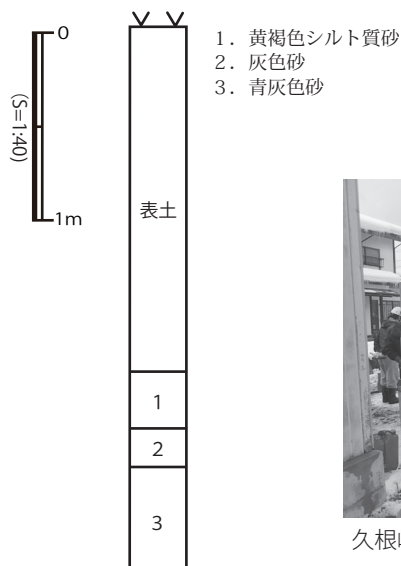
遺構・遺物は確認されなかった。



第71図 久根崎遺跡隣地調査位置図



第72図 久根崎遺跡隣地掘削位置図



第73図 久根崎遺跡隣地柱状図



久根崎遺跡隣地 重機掘削状況 (南東より)



久根崎遺跡隣地 南壁 (北より)

3 若狭郷屋字沢見

- (1) 調査日 令和3年5月17日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字沢見 848-8 ほか
- (3) 調査目的 個人住宅建設
- (4) 調査方法及び内容

当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲にはかからないが、未調査地のため工事立会を行うものとした。深掘りを行う基礎工事の際に立会いを行い、土層及び遺跡の有無を確認した。

(5) 結 果

調査時は碎石を敷いた状態であったため目視による確認を行った。工事は表土を地表面から30cm程度を掘削しており、排土には現代の廃棄物等が多く混ざっていた。

遺構・遺物は確認されなかった。



調査範囲 第74図 若狭郷屋字沢見調査位置図



若狭郷屋字沢見 調査地全景 (南東より)



若狭郷屋字沢見 掘削状況 (南より)

4 北町遺跡

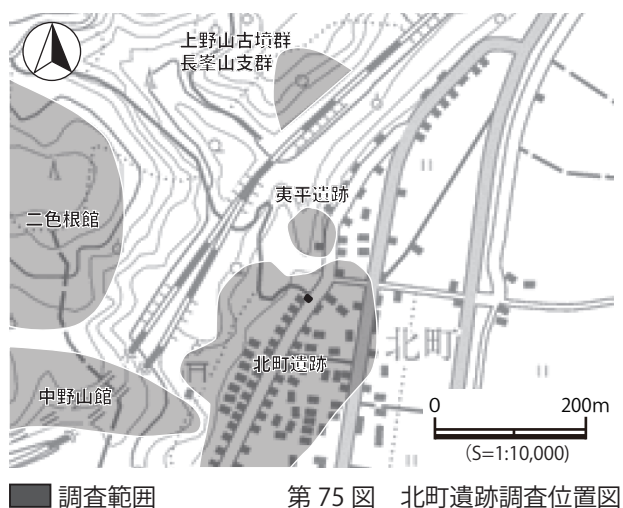
- (1) 調査日 令和3年9月1日
 (2) 調査場所 南陽市赤湯字新田 2006
 (3) 調査原因 水道工事
 (4) 調査方法及び内容

当該地は北町遺跡の範囲に含まれる。漏水に伴う緊急工事が急遽実施されることになったため立会を行った。工事は幅1m×長2mの溝を掘り水道管を露出させるもので、重機による掘削に立ち会った。

(5) 結果

土層は地表下90cm～100cmで地山となる山地由来の硬い褐色層にあたる。

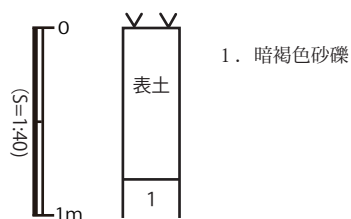
遺構・遺物は確認されなかった。平成8年度に行われた付近の下水道工事の際も遺物は見つかっていないことから、当該地点は山の縁辺と思われる。



第75図 北町遺跡調査位置図



北町遺跡 工事全景 (東より)



第76図 北町遺跡柱状図



北町遺跡 掘削終了 (東より)

5 三間通字西唐越

- (1) 調査日 令和3年10月4日
- (2) 調査場所 南陽市三間通字西唐越 466-15
- (3) 調査原因 倉庫建設
- (4) 調査方法及び内容

当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲にはかからないが、未調査地のため工事立会を行うものとした。深掘りを行う基礎工事の際に立会いを行い、土層及び遺跡の有無を確認した。

(5) 結果

コンクリートを除去し、掘削を行った段階で立会いを行った。掘り起こした土を確認したところ、現代の廃棄物が混入していた。

遺構・遺物は確認されなかった。



第 77 図 三間通字西唐越調査位置図



三間通字西唐越 調査地全景 (西より)



三間通字西唐越 掘削状況 (南東より)

6 川樋大字大洞山

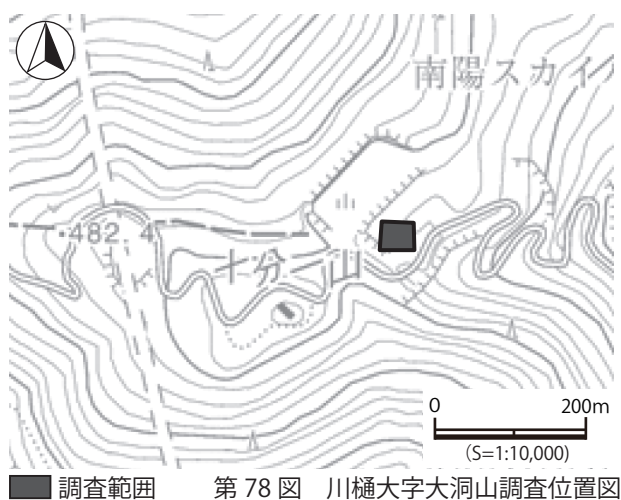
- (1) 調査日 令和3年10月26日
 (2) 調査場所 南陽市川樋大字大洞山 3939-26
 (3) 調査原因 防火水槽工事
 (4) 調査方法及び内容

当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲にはかからないが、未調査地のため工事立会を行うものとした。3.9mの掘削直後に工事立会を行った。

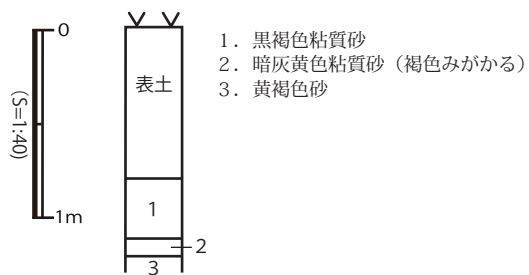
(5) 結果

表土層の下は明褐色粘土の地山だった。

遺構・遺物は確認されなかった。



川樋大字大洞山 北・東壁 (南西より)



第79図 川樋大字大洞山柱状図



川樋大字大洞山 西壁 (東より)



川樋大字大洞山 調査地全景 (南東より)

7 羽付字道東

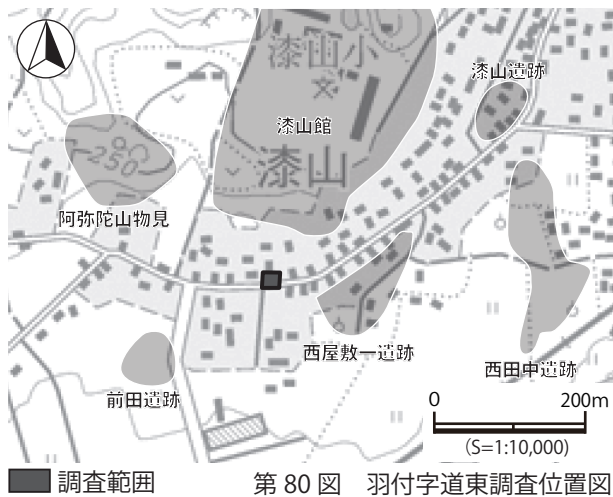
- (1) 調査日 令和3年10月29日
- (2) 調査場所 南陽市羽付字道東 369-2
- (3) 調査原因 消防団ポンプ庫建替
- (4) 調査方法及び内容

当該地は埋蔵文化財包蔵地の範囲にはかからないが、未調査地であり周囲を遺跡で囲まれていることから、基礎掘削の際に工事立会を行うものとした。

(5) 結果

土層は、地表面から厚い攪乱層を挟み、63cmで暗褐色粘質砂層にあたる。90cmで黒色砂質粘土層、128cmで暗褐色砂質粘土を検出した。

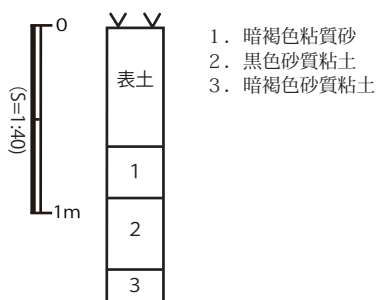
遺構・遺物は確認されなかった。



第80図 羽付字道東調査位置図



羽付字道東 調査地全景 (南より)



第81図 羽付字道東柱状図



羽付字道東 北壁 (南より)

V 中世城館等測量調査

1 調査概要と目的

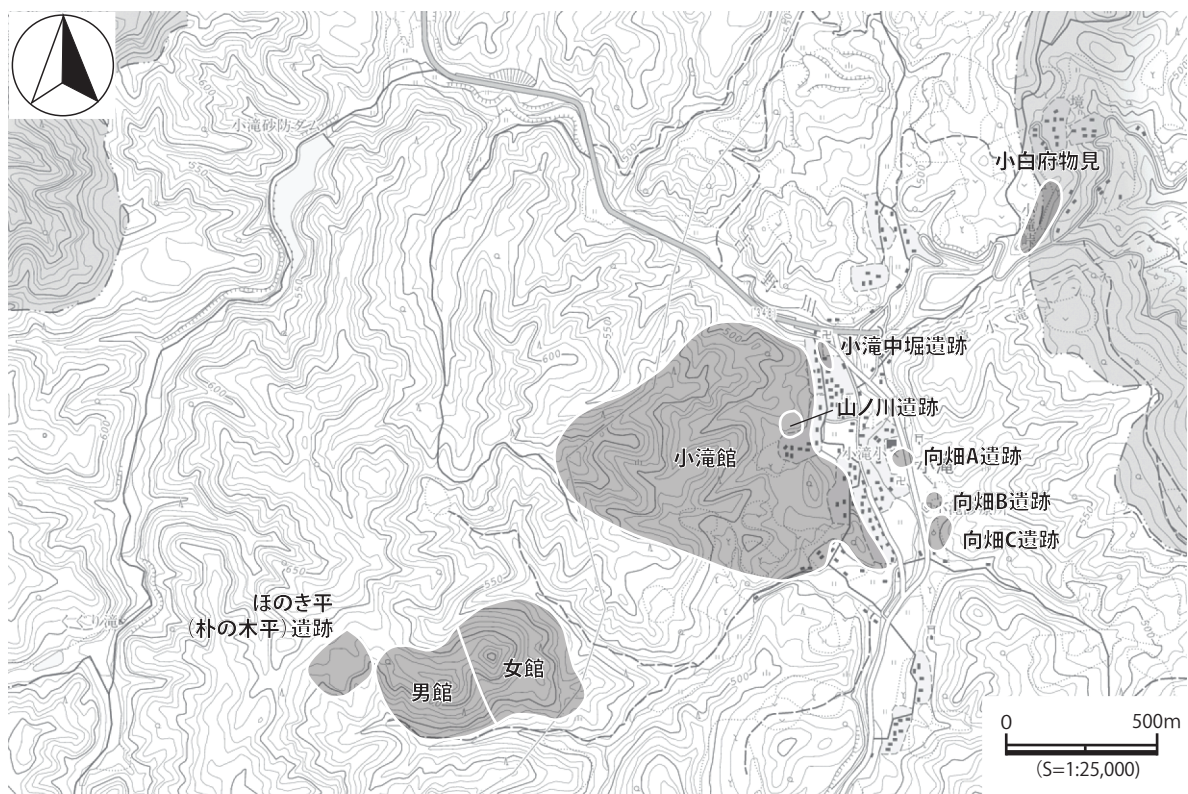
- (1) 調査期間 令和3年10月28日～令和4年3月12日
- (2) 調査場所 南陽市小滝地内
- (3) 調査目的

対象地は、南陽市小滝の西方に広がる山地で、小滝館跡とその周辺地である。小滝館、男館、女館等が周知の中世城館跡として登録されている。また、古墳なのか近世の修験壇なのか不明な向畑C遺跡が含まれる。

今次調査では周知の館跡の規模や正確な位置を把握することを主たる目的に、未確認の城郭遺構や古墳、修験壇、鉦山跡等の把握を行い、遺跡台帳を整備し、今後の調査や遺跡保護に資するため赤色立体地図等の作成を行うこととしたものである。

2 調査方法

調査地の現況は山林であることから、落葉後に航空レーザー測量及び現地での補助測量を実施した。赤色立体地図を元に館跡の略図を作成した。なお、略図は読み取った地形の概略図である。主たる計測範囲は小滝城を中心とした1.3km²であるが、計測範囲は可能な限り広くとることとした。

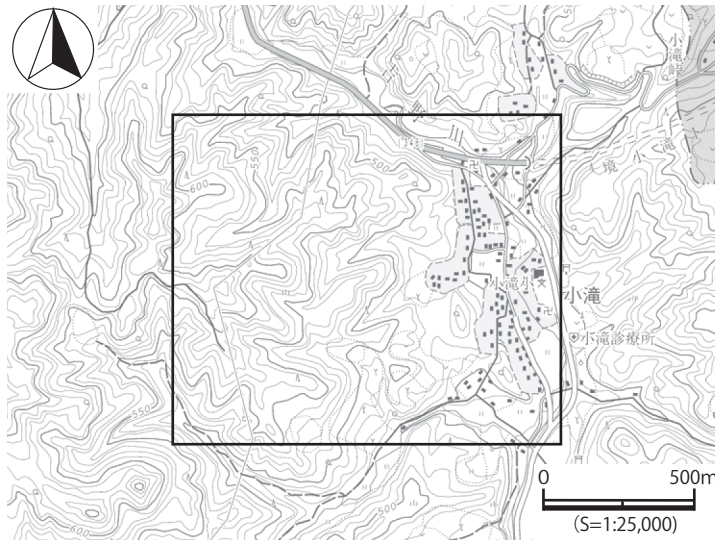


第 82 図 調査遺跡位置図

3 測量方法と経過

測量計画は、GNSS 衛星配置等を考慮し、計測諸元、飛行コース、GNSS 基準局の設置場所及び GNSS 観測について作成し、1 m×1 mに4点の計測データを取得するものとした。測量機材は、必要に応じ「公共測量作業規定の準則」に定める検定を第三者機関より受けたものを使用した。

3次元航空レーザー測量は航空レーザー計測システム及びGNSS/IMU装置を搭載した回転翼機を用いて実施した。航空レーザー測量データ（GNSS 基準局のGNSS 観測データ、航空機上のGNSS及びIMU 観測データ、レーザー測距データ）を統合解析し、地表のレーザー照射位置の三次元座標を求めた。調整用基準点を設定し、三次元計測データを補正した。補正後のオリジナルデータから、建物や植生等の地物を除去したグランドデータを作成、これを基に等高線データ、赤色立体地図となる地形表現図を作成した。



第 83 図 レーザー測量計画範囲図

4 主な成果

小滝館、男館、女館、向畑 C 遺跡について報告する。

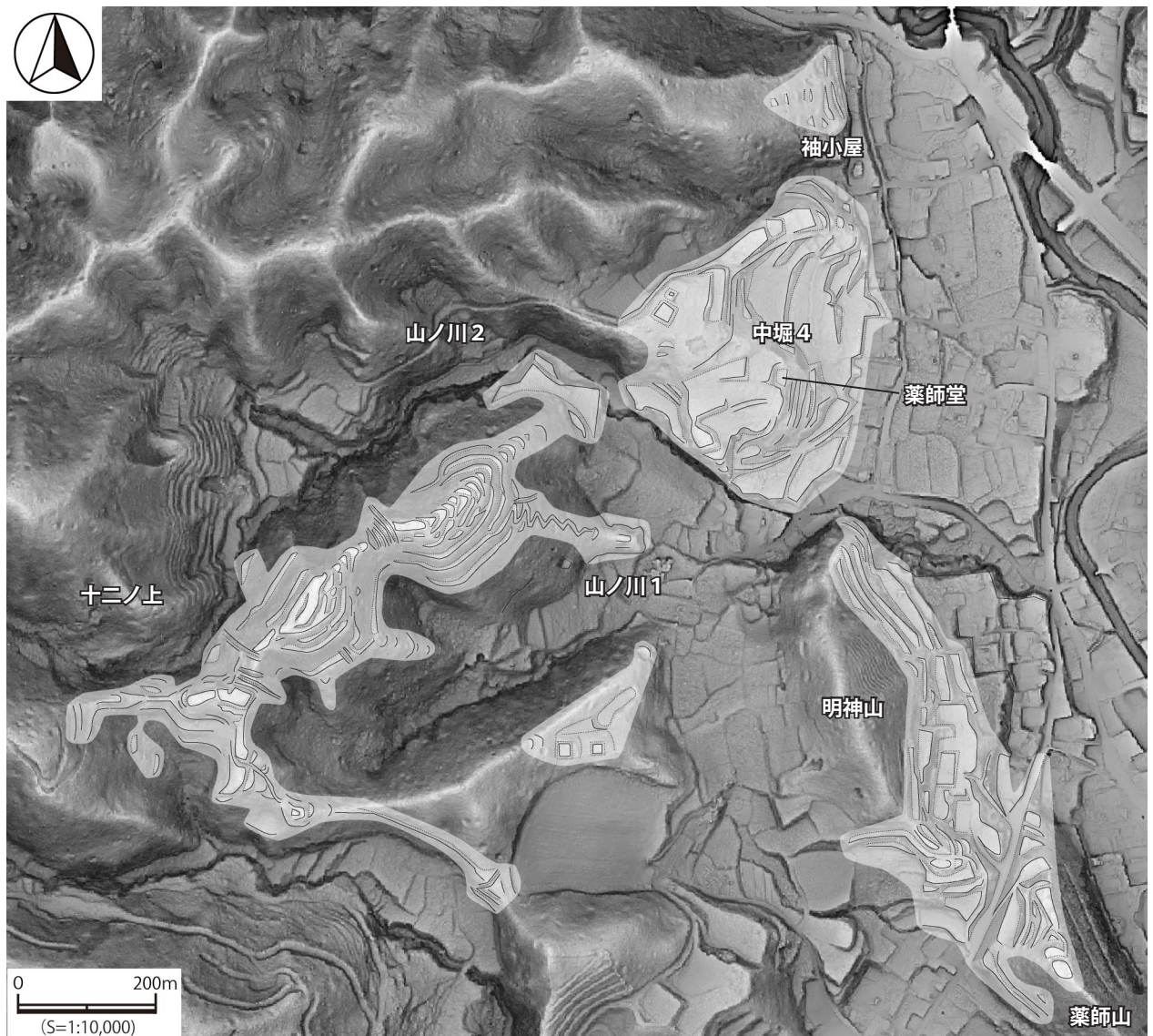
(1) 小滝館跡 (第 84 図)

小滝は地理的に最上と置賜の境であり、最上に向かう小滝街道と細越街道が合する要衝地である。小滝館は小滝集落の西方の山々に築かれた広大な城館あるいは城館群で、大きく三つのエリアに区分できる。一つめは薬師山から明神山付近、二つめは字中堀4、中堀3（通称「袖小屋」）、三つめは山城となる字十二ノ上（通称「じんの上」）である。

薬師山から明神山の曲輪群は、旧小滝街道と伝わる古道を薬師山と明神山で挟むように南北に位置する。字中堀4付近の曲輪群は、北側に白鷹に向かう細越街道をひかえ最上側からの侵攻に備える構えを見せている。薬師堂の西に方形状の広い曲輪を有する。山頂には方形状壇が二つ確認できるが、白鷹山修験の修法壇かと思われる。字十二ノ上の曲輪群は、周囲を

字山ノ川という谷に囲まれた標高 545 m 付近の山頂に主郭を置き、四重堀切と三重堀切で各曲輪を区画している。山形県中世城館遺跡調査ではこの山城部分を細分し、第Ⅲ群（東方主郭）、第Ⅳ群（西方主郭）、第Ⅴ群（鉄砲構え）としているが、赤色立体図においてその状況が確認できる。この第Ⅴ群の東方には修法壇（すほうだん、しゅうだん）と地元で伝わる二つの方形壇が見られる。同様の方形壇は向畑 C 遺跡に存在することが知られており、今次調査でもその状況が確認できる。

これらの他に小滝館跡周辺では字隠沢にも館跡の可能性のある地形が確認された。これまでの城館調査では取り上げられていないが今後さらに調査が必要である。



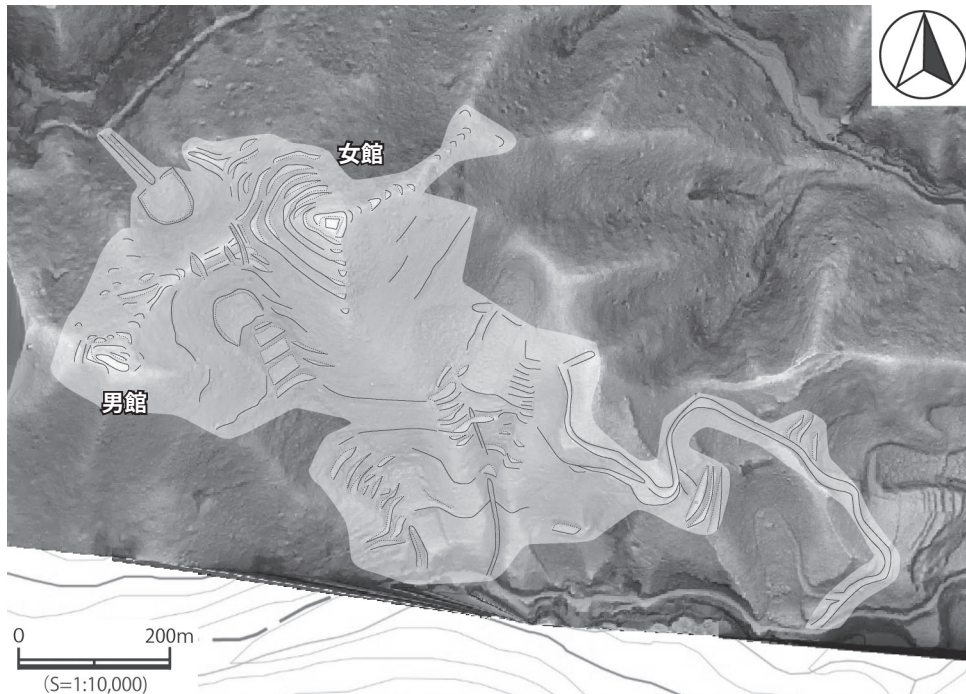
第 84 図 小滝館略図

(2) ^{めったて}女館跡・^{おったて}男館跡 (第 85 図)

女館・男館は、小滝字隠沢、字西沢に位置し、隣り合う二つの山の山頂をそれぞれ主郭とする。東側が女館、西側が男館である。天保年間のもと言われる『米澤小瀧潜沢大明神之図』にそれぞれ「女館」「男館」と記されている。

女館は、標高 651m、比高約 150m の山頂に主郭を配し、四方に腰曲輪を構える。小滝の字後山から水林へと通ずる柴坂峠の手前にあたる。主郭の東側の標高 550m 付近には第二次大戦後にサクランボを植えたこととされ、根小屋と推定されている緩斜面地がある。ここから主郭までは急斜面で通路は明確でない。男館に続く鞍部は三本の堀切で区画しており、鞍部の左右の谷底には広く浅い低地が見られる。

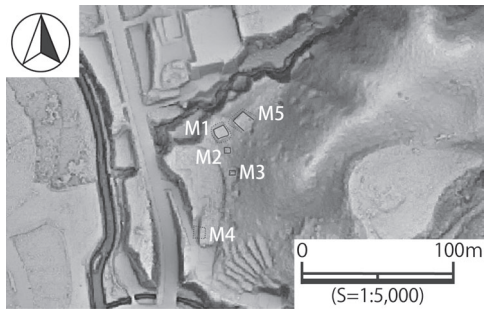
男館は、標高 649m の山頂に主郭を配する。女館と男館の主郭は 150m ほどしか離れていない。平成 3 年の踏査記録では、館の東側斜面は石積みの曲輪状になっていたとの報告があり、女館と男館の鞍部南側が男館の根小屋と推定しているが、当該地は畑地に開墾されており、あたかも石塁があるようになっていると述べている。現在ではかなり山の奥深い所に思えるが、戦後の開拓の影響が山の中腹まで及んでいるものと思われる。



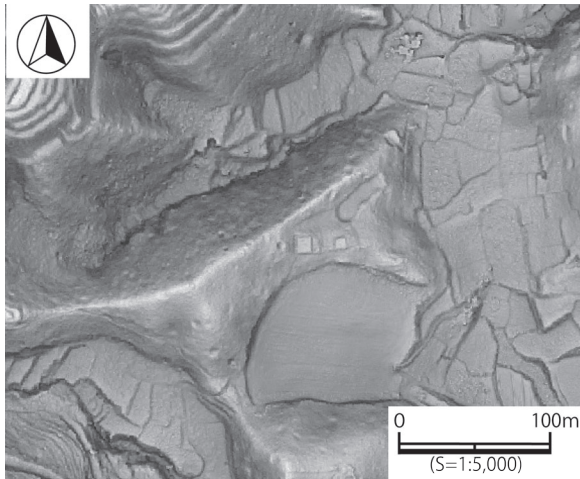
第 85 図 女館・男館略図

(3) 向畑 C 遺跡 (第 86 図)

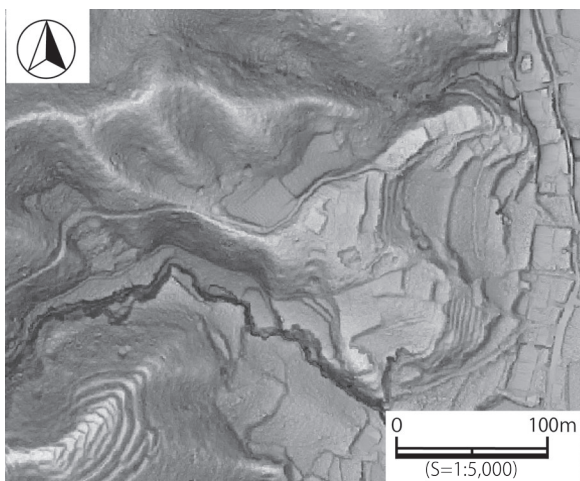
向畑 C 遺跡は、吉野川東岸の字向畑七の山林内に分布する。これまで M1 ～ M5 の塚や方形壇が確認されており、そのうち M2 は昭和 12・13 年頃に発掘され、長さ 1.2 ～ 1.3m、幅 0.4 ～ 0.5m の蓋石・底石ともに一枚岩の石棺が出土し、内部には人骨と勾玉があったこととされ、小滝古墳と称された時期もある。M4 は県道工事関連で昭和 60 年に発掘調査が実施されたのち破壊されたが古墳ではなかったとみられる。M1、M4、M5 は M2、M3 と比べると規模が大きく低平であり、小滝館跡の南に見られる修法壇と呼ばれる方形壇 (第 87 図) や字中堀四の西に見られる方形壇 (第 88 図) に類似する。これら低平で規模の大きい方形壇は残存状況も良好であり、白鷹修験に関連した中世～近世の壇と考えるのが妥当であろう。



第 86 図 向畑 C 遺跡



第 87 図 修法壇



第 88 図 西中堀四の西の壇

第四次長岡南森遺跡確認調査（概報）

本報告は、文化庁の補助を受けて令和3年度に南陽市教育委員会が実施した長岡南森遺跡確認調査に関する調査報告である。

調査は、南陽市教育委員会が実施した。

出土遺物、調査記録類は報告書作成後、南陽市教育委員会が保管する。

凡 例

| | | |
|---------|----------------------|--------------------|
| 調 査 主 体 | 南陽市教育委員会社会教育課埋蔵文化財係 | |
| 調 査 期 間 | 令和3年5月12日から令和3年7月20日 | |
| 発掘調査担当者 | 社会教育課長 | 山口広昭 |
| | 調 査 主 任 | 角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長） |
| | 埋蔵文化財係主任 | 高橋 徹 |
| | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 斉藤紘輝 |
| 整理作業担当者 | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 吉田江美子 |
| | 埋蔵文化財係会計年度任用職員 | 山田 渚 |

- 1 長岡南森遺跡確認調査委員会の構成は以下の通りである。
菊地 芳朗（福島大学行政政策学類教授）
北野 博司（東北芸術工科大学歴史遺産学科教授）
青木 敬（國學院大學文学部史学科教授）
佐藤 庄一（山形県考古学会顧問・南陽市文化財保護審議会委員）
(順不同、敬称略)
- 2 本概報の執筆については角田朋行が担当した。遺物写真撮影は山田渚、報告書デジタル編集・構成作業は吉田江美子・山田渚が担当した。
- 3 挿図の縮尺はスケールで示した。
- 4 本書で使用した遺構の分類記号は下記の通りである。
S P・・・ピット S K・・・土坑 E L・・・カマド
- 5 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 6 小字名は、近年における字名の統廃合等で変化している場合、地名記録の観点から明治期の地籍図を小字名を括弧書きで記載した。

7 調査にあたっては、土地所有者の皆様をはじめ、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。(五十音順・敬称略)

山形県、南陽市シルバー人材センター、青木敬、菊地芳朗、北野博司、佐藤庄一

8 遺跡の基準点設置は、明光技研株式会社に委託した。

I 調査の経緯と目的

第1節 調査に至る経緯

長岡南森遺跡は、南森と呼ばれる独立丘陵地に立地する遺跡である。昭和53年稲荷森古墳調査団により確認され、平成5年度以降、丘陵の形状が前方後円墳に似ているとして踏査が続けられてきた。近年周辺の土地開発が進み、丘陵に開発が及ぶ恐れがあることから、平成28年度に市教育委員会は遺跡の現状把握と今後の調査及び遺跡保護の基礎資料を得ることを目的に測量調査を実施した。

その結果、南森丘陵が古墳である可能性があり、遺跡の性格を把握するために調査検討が必要であると判断した。調査は、平成30年度を初年度とし、当初5か年計画による確認調査を計画した。令和元年度に長岡南森遺跡確認調査委員会を設置した。今年度は第4次調査となる。

第2節 調査期間と目的

今年度のトレンチ調査の総面積は145.3㎡となる。

(1) 調査期間

第四次長岡南森遺跡確認調査

発掘調査期間 令和3(2021)年5月12日～令和3(2021)年7月20日

(2) 第四次確認調査の調査地

山形県南陽市長岡1650-1、1639、1640、1641、1645、1646、1706、1707、1708、1727、1728、1732、1734、1735

(3) 第四次確認調査の目的

長岡南森遺跡の性格把握及び南森丘陵の地形とその成因の把握を目的とする。特に南森丘陵が古墳かどうかの確認については重要事項と位置づけた。調査にあたって下記の目標を設定した。

- ・丘陵の地形及び成因を把握（切土・盛土等の有無の確認）すること。
- ・これまでの調査で段状地形が丘陵を存在し巡るかを確認すること。
- ・墳端に相当する地形の有無を確認すること。
- ・周溝や土取跡に相当する遺構の有無を確認すること。
- ・古墳に伴う遺物や遺構の有無を確認すること。
- ・次年度調査計画立案のための基礎データの収集及び課題の把握を行うこと。

表2 グリッド数値

| 杭 | X | Y | H |
|---|-------------|------------|---------|
| A | -217662.008 | -59334.244 | 217.106 |
| B | -217652.008 | -59274.244 | 219.639 |
| C | -217642.008 | -59294.244 | 220.254 |
| D | -217622.008 | -59314.244 | 216.293 |
| E | -217622.008 | -59284.244 | 219.175 |
| F | -217602.008 | -59284.244 | 219.974 |
| G | -217672.008 | -59324.244 | 217.744 |
| H | -217632.008 | -59304.244 | 218.397 |
| I | -217622.008 | -59264.244 | 216.437 |
| J | -217582.008 | -59284.244 | 218.393 |
| K | -217572.508 | -59294.244 | 216.249 |
| L | -217732.008 | -59304.224 | 215.035 |
| M | -217732.008 | -59284.244 | 216.860 |

第3節 調査方法

(1) グリッドの設定

南森丘陵の測量図を基本にグリッドを設定した。南森丘陵は前方部と推定した北半部と後円部と推定した楕円形状の南半部から成る。グリッドは 10m × 10m で丘陵南北軸を基線とし、南森丘陵の東西方向をアルファベット大文字で東から A ~ R に、南森丘陵の南北方向を数字で北から 1 ~ 22 とした。現地で設営した基準杭は、グリッドの西北角に配置し、13ヶ所の基準杭 (A ~ M) を設置した。座標値は表 2 のとおりである。

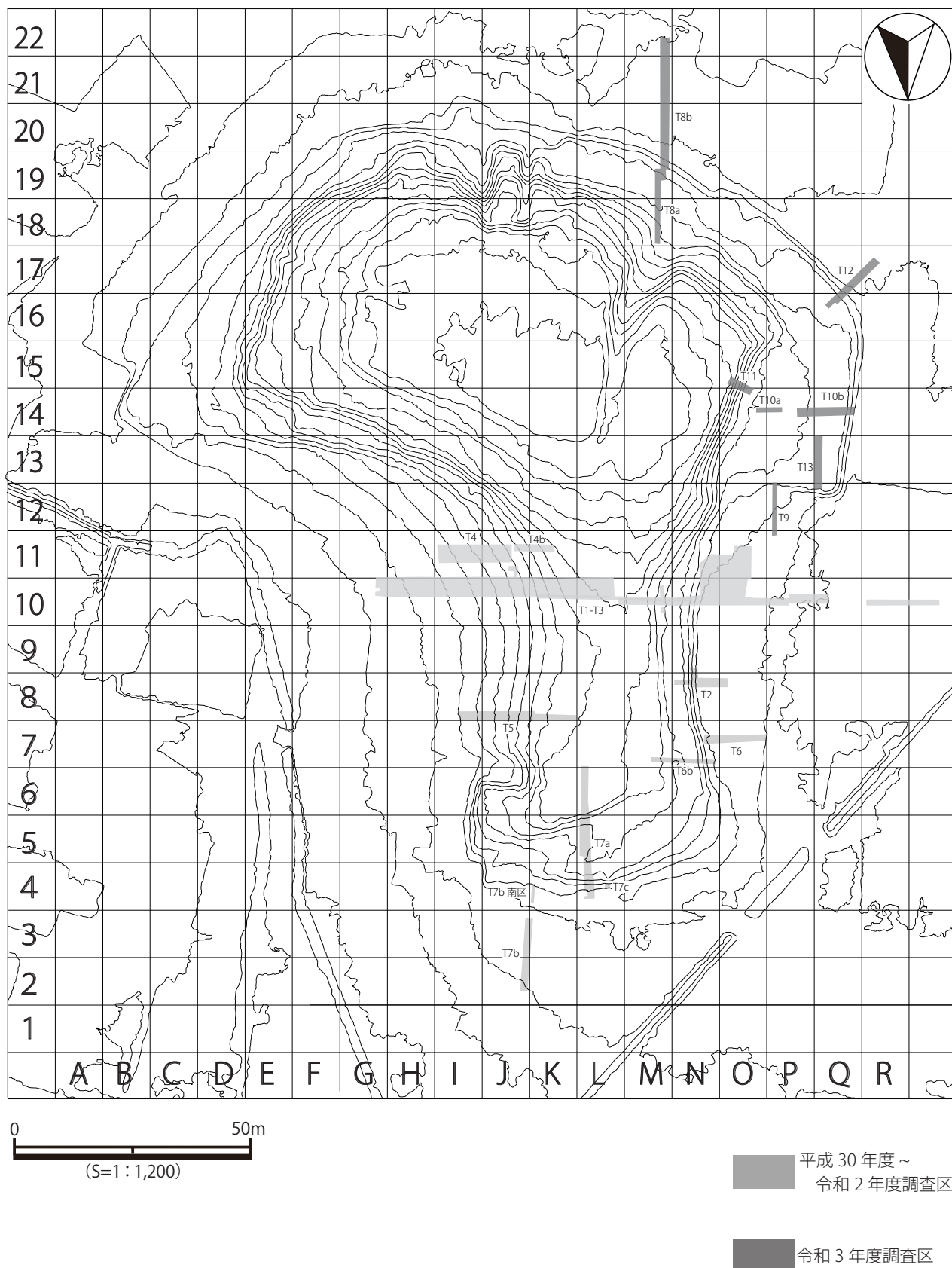
(2) 調査地点の設定

長岡南森遺跡確認調査委員会(菊地芳朗委員長)の指導を踏まえて調査地点を検討し、地権者の発掘承認が得られた範囲内にトレンチを設定した。M18-M19G に T18a、M19-M22G に T8b、T12G に T9、O14-Q14G に T10、O14-O15G に T11、P16-Q17G に T12 の計 6 地点を設定した。

(3) 発掘調査

- 5月12日(水) 作業員顔合わせ、諸注意等伝達。資材搬入作業。テント設営予定地付近の草刈り・支障木伐採。作業通路草刈り。テント組み立て。T8 周辺草刈り、T8、T9、T10 設定、T8 表土を幅 2 m で掘り下げ開始。
- 5月13日(木) T8 掘り下げ・傾斜変換点付近精査。T8 平地部草刈り。グリッド設定。T8 土留め板搬入・設置。
- 5月14日(金) T8 掘り下げ(平地部と現況の一段目)、平地部は全体に表土除去し東側にサブトレンチを設定し掘り下げ。
- 5月17日(月) 雨天につき現場休み。
- 5月18日(火) T8 表土除去終了、東側 1 m 幅に調査範囲を絞り掘り下げ開始。2層~3層目掘り下げ。T8 平地部掘り下げ・遺物記録、丘陵裾付近掘り下げ、斜面部サブトレンチ掘り下げ。T8 壁の断面検討。
- 5月20日(木) 雨天につき現場休み。
- 5月21日(金) T8 平地部サブトレンチ掘り下げ。T8 現況一段目の裾付近掘り下げ。T8 斜面部の東壁図化。
- 5月24日(月) T8 平地部西側半分を段状に掘り下げ。T8 斜面部西側壁切り、東壁断面図作成。遺物記録。T8 安全対策として平地部西側半分を段状に掘り下げ。T8 斜面部の東壁図化。
- 5月25日(火) T8 壁切り。T8、T10 周辺草刈り。午後現場を休み。
- 5月26日(水) 雨天につき現場休み。
- 5月27日(木) T8 清掃、遺物記録。T10 土留め板設置しサブトレンチ掘り下げ。T11 支障木刈り払い後に法面削り開始。午後に長岡南森遺跡確認調査委員会による現地視察。
- 5月28日(金) T8 サブトレンチ部を全体に拡幅し掘り下げ。
- 5月31日(月) T8 サブトレンチ掘り下げ。T8 平地部の北端付近地山まで掘り下げ。T8

- 北壁図化・写真撮影。T8 斜面部の東壁図化。
- 6月1日(火) T8 平地部の地山面整理、北壁図化。T8 北端の延長部掘り下げ。T8 斜面部の東壁図化。T11 の壁切、裾部掘り下げ。
- 6月2日(水) T8 地山までの掘り下げ。T10 掘り下げ。T11 壁面清掃、写真記録。
- 6月3日(木) T8 地山までの掘り下げ、T8 平地部東壁図化。T10 掘り下げ。
- 6月7日(月) T8 平地部の東壁図化、T8 平面図作成。T10 掘り下げ、焼土遺構検出。
- 6月8日(火) T8 清掃、遺物写真撮影、SP 記録。T9 掘り下げ開始。T10 掘り下げ。
- 6月9日(水) T8 の SP 記録、全体清掃、完掘写真撮影。東壁図化。T9・T10 掘り下げ。T12 周辺草刈り。
- 6月10日(木) T8 東壁図化。T9 掘り下げ、南半に大きな攪乱。T10 竪穴住居掘り下げ、遺物記録。T12 サブトレンチ掘り下げ。T13 設定、掘り下げ開始。
- 6月11日(金) T8 東壁記録。T9・T12 掘り下げ。午後雷雲接近により中止。
- 6月14日(月) T8 コンタ図作成。T9・T13 掘り下げ。午後雷雲接近により中止。
- 6月15日(火) T8 コンタ図作成、壁図面作成。T12・T13 掘り下げ。午後雷雲接近により中止。
- 6月16日(水) T10 平地部遺物記録。T12・T13 掘り下げ。
- 6月17日(木) T8 東壁図化。T10 竪穴住居跡ベルト断面図化・写真撮影、遺構写真撮影。T12・T13 掘り下げ。
- 6月18日(金) T8 東壁図化。T10 南壁図化。T12・13 掘り下げ。
- 6月21日(月) T8 東壁図化。T10 平面図作成、コンタ図作成。T12・13 掘り下げ。
- 6月22日(月) T8・T10 壁図化。T12・13 掘り下げ。午後雷雲接近により中止。
- 6月23日(火) 雨天のため 10:00 から作業開始。T12・T13 掘り下げ。午後雷雲接近により中止。
- 6月24日(水) T8 記録作業。T9 平面図作成。T10 遺構写真撮影、全景写真撮影。調査地周辺草刈り。
- 6月25日(金) T8 西壁図化。T9 西壁図化。T12・T13 掘り下げ。
- 6月28日(月) 終日雨天につき午後に T8、T13 の壁図化作業のみ実施。
- 6月29日(火) T8・T9・T13 壁図化。T12 掘り下げ。
- 6月30日(水) T8 掘り下げ。T12 掘り下げ。T13 コンタ図作成、清掃、完掘写真撮影。
- 7月1日(木) T8 壁図化。T9・T12 掘り下げ。T13 壁図化。掘り方終了。
- 7月2日(金) 雨天で作業員は休み。T8・T12 壁図化。
- 7月5日(月) 排水作業。T8・T12 壁図化。T9 掘り足りない部分の面削り。
- 7月6日(火) 雨天で作業員は休み。T8・T9 壁図化。
- 7月7日(水) 排水作業。T8・T9 図化。T10～T13 の位置を平板にて図化。
- 7月8日(木) 全トレンチ排水、清掃作業。午後に長岡南森遺跡確認調査委員会の2回目



第 89 図 長岡南森遺跡平面図

の現地指導。

- 7月9日（金） 雨天のため作業員は休み。T8 追加記録。T9 排水作業、追加記録。T9 写真撮影。T8 の位置を平板にて図化。
- 7月12日（月） T12 排水作業、記録。T13 追加記録。
- 7月13日（火） 排水作業。現地説明会実施。午後に撤収作業に入る。
- 7月14日（水） 撤収作業。
- 7月15日（木） 排水作業。
- 7月16日（金） 排水作業、埋め戻し作業。
- 7月20日（火） 埋め戻し作業（調査終了）

II 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

南陽市は、山形県南部の米沢盆地北東部にあたり、北緯 38° 1'11" ~ 38° 13'25"、東経 140° 14'11" ~ 140° 14'17" に位置する。市域の南北の長さは約 22.6km、東西は約 14.8km で、面積は約 160.70km²である。

市域北部は山地で、最北端には白鷹山がそびえる。市域南部は宮内扇状地で、その東には低湿地帯として知られる大谷地が広がる。宮内扇状地の扇頂から宮内地区を南流した吉野川は、東南の赤湯地区に向かって緩やかに流れを変えた後、高畠町との境にあたる大谷地南部で急に西に向きを変えて屋代川と合流し、市域南端で最上川に流れ込む。遺跡の立地する丘陵は大谷地西端にあたり、吉野川は丘陵の東と南を流れる。

長岡南森遺跡の所在地は南陽市長岡字南森、字南森西、字清水尻、字西田中南、字西田、俎柳字六百刈である。南森丘陵の主要地番は長岡字南森 1650 番地 1 である。

長岡南森遺跡は J R 赤湯駅から南東約 1.2km に、また国指定史跡稻荷森古墳の南東約 130 m の場所に位置する。遺跡の東には国道 399 号線が通り、遺跡と国道の間に長岡地区の集落が広がる。近年、南森丘陵隣接地の宅地化が進んでいる。丘陵北半部は主に果樹園や畑地として利用されていたが休耕地が増えている。丘陵南半部は雑木林で失止八幡宮・神明神社・近世墓地がある。

第2節 周辺の歴史的環境

長岡南森遺跡周辺は長い歴史の中で人々に豊かな自然の恵みを与えた大谷地に囲まれた洪積世の台地の一部であり、これらの地域ではその生活の様子がうかがえる遺跡が数多く、また旧石器から中世にわたる遺跡が確認されている。

縄文時代の遺跡は大谷地や吉野川・上無川・織機川など河川周辺を中心に多く分布し、この長岡南森遺跡から東側 1.5km 先では低湿地の集落遺跡である押出遺跡（高畠町）が確認された。

弥生時代の代表的な遺跡としては、弥生中期の墓跡である百川田遺跡や、石包丁が出土した萩生田遺跡がある。

古墳時代の遺跡として、全長 96 m の前方後円墳である稻荷森古墳や長岡山遺跡の方形周溝墓群が確認されている。

古代の遺跡では、南森丘陵の北西約 600m に位置する矢ノ目館跡からは道路跡が、長岡山遺跡からは円面硯や墨書土器なども出土している。

中世の遺跡では、長岡山丘陵上に湯野目氏が居住したと伝わる長岡館跡が、南森丘陵の南側では旧河道を挟んで内城館跡が確認された。南には近年鶉ノ木館跡が発掘調査・報告されている。

Ⅲ 調査の概要

第1節 第8a・第8b トレンチ (T8a・T8b) (第90・91 図)

T8a・T8b は丘陵南半部の南斜面に設定した。当初は単一のトレンチで計画していたが立木により T8a と T8b に分割することとなった。T8a は幅 1m × 長さ 15.6 m、T8b は幅 2m × 長さ 29 m で T8a を西に 1 m ずらして設定した。T8a・T8b は 1 m メッシュのグリッドで細分した。T8a は 1G ~ 16G、T8b はグリッドを東西に分け 17G ~ 45GW・E で設定した。T8b はトレンチ北端に T8a と並行するように幅 0.7 m × 長さ 2 m の拡張区を設定した。また T8b は斜面部を 2m 幅で掘削し、平坦部は途中から東側のみを幅 1 m で掘り下げた。調査面積は計 75.6 m² である。

(1) 地形

T8a 断面を観察すると表土層は地山まで達しており、後世の削平を受けたと思われる。段状になっている地形も地山まで削られ北に後退しているとみられる。T8b は丘陵裾部付近で低い段状の地形が確認され、その南側は低地が続いている。

(2) 遺構

T8a では削平された斜面裾の 9G・10G で暗褐色土に焼土を含む、古代の土坑 (SK) を検出した。15G で柱穴 2 基 (SP1・2) を検出した。

(3) 遺物の出土状況

遺物は縄文土器、石器、土師器、須恵器が混在して出土した。その他 T8a の表層から古墳時代前期の器台脚部、古代須恵器坏 (底部に刻書「西」) が出土した。T8b では低地部の黒色土層からは縄文土器、石器 (石冠等) が出土した。

第2節 第9 トレンチ (T9) (第92 図)

T9 は丘陵西斜面に幅 1 m × 長さ 9.3 m のトレンチとして設定した。調査面積は 9.3m² である。

(1) 地形

トレンチ南側は重機によって掘削されている。トレンチ北側では傾斜変換点を確認した。

(2) 遺構

柱穴 (SP1・2) を検出した。

(3) 遺物

表土層から土師器、須恵器、縄文土器、石器が出土した。

第3節 第10a・第10b トレンチ (T10a・T10b) (第93・95図)

T10a・T10bは丘陵西側の畑地跡に設定した。T10bは幅1.5×長さ9mを設定した。確認調査委員会の指導を得て作業道を挟んで東側に幅1×長さ5.4mの拡張区を設定したものをT10aとした。調査面積はT10aが5.4㎡、T10bが13.5㎡である。

(1) 地形

T10aでは盛土・地山ともに後世の削平を受けた痕跡がみられる。T10bでは、西端で地山を削った段の立ち上がりが見られるものの、東端では後世の攪乱の影響を大きく受けている。

(2) 遺構

T10aでは、遺構・遺物共に確認出来なかった。T10bでは、トレンチ東側で竪穴住居のカマドの一部(EL)を確認した。袖石とみられる大きめの石と、そのカマド内のくぼみに支脚と思われる多角形の棒状(中実)土製品(写真図版8)が埋設されていた。その土製品を囲むようにかたくしまった土と袖石とみられる大きめの石が埋められていた。

(3) 遺物の出土状況

カマド周辺や土坑から平安期とみられる土師器、須恵器が出土した。攪乱からは器台、土師器、須恵器が出土した。

第4節 第11 トレンチ (T11) (第94図)

幅2m×長さ5mのトレンチを設定し、覆土の状況を確認するため壁面を削った。

(1) 地形

覆土は削平されていた。

(2) 遺構

遺構は検出されなかった。

(3) 遺物の出土状況

遺物は出土しなかった。裾部の表土層に現代の廃棄物を多く含んでいた。

第5節 第12 トレンチ (T12) (第96図)

T12は丘陵南西部の斜面に設定した。幅1m×長さ13.5mでグリッドP16、Q17に設定した。現代の盛土が厚いことが判明したため、トレンチ南側の幅50cmのみを地山まで掘削した。掘削調査面積は13.5㎡である。

(1) 地形

表面には重機による大規模な攪乱・削平によって地山まで削られ厚い盛土層が堆積している。丘陵部では傾斜地形を検出したが、後世の改変の影響を受けていると思われる。トレンチ南西側に低地があり、その状況は T8b に似る。

(2) 遺構

時代不明の柱穴 (SP1) を 1 基確認した。

(3) 遺物の出土状況

盛土層から、土師器、須恵器が混在して出土した。

第6節 第13トレンチ (T13) (第97図)

丘陵南西側の周辺より 1 段高い畑地跡の北辺に設定した。幅 2 m × 長さ 9 m のトレンチを P12 ~ 13 に設定した。重機を使用したと見られる攪乱が見られる。調査面積は 18m²である。

(1) 地形

地山は南から北に下り、傾斜は東西方向に緩い円弧を示す。斜面の途中に傾斜変換点が確認される。トレンチ北端付近では低い段状地形が検出された。

(2) 遺構

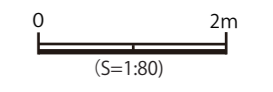
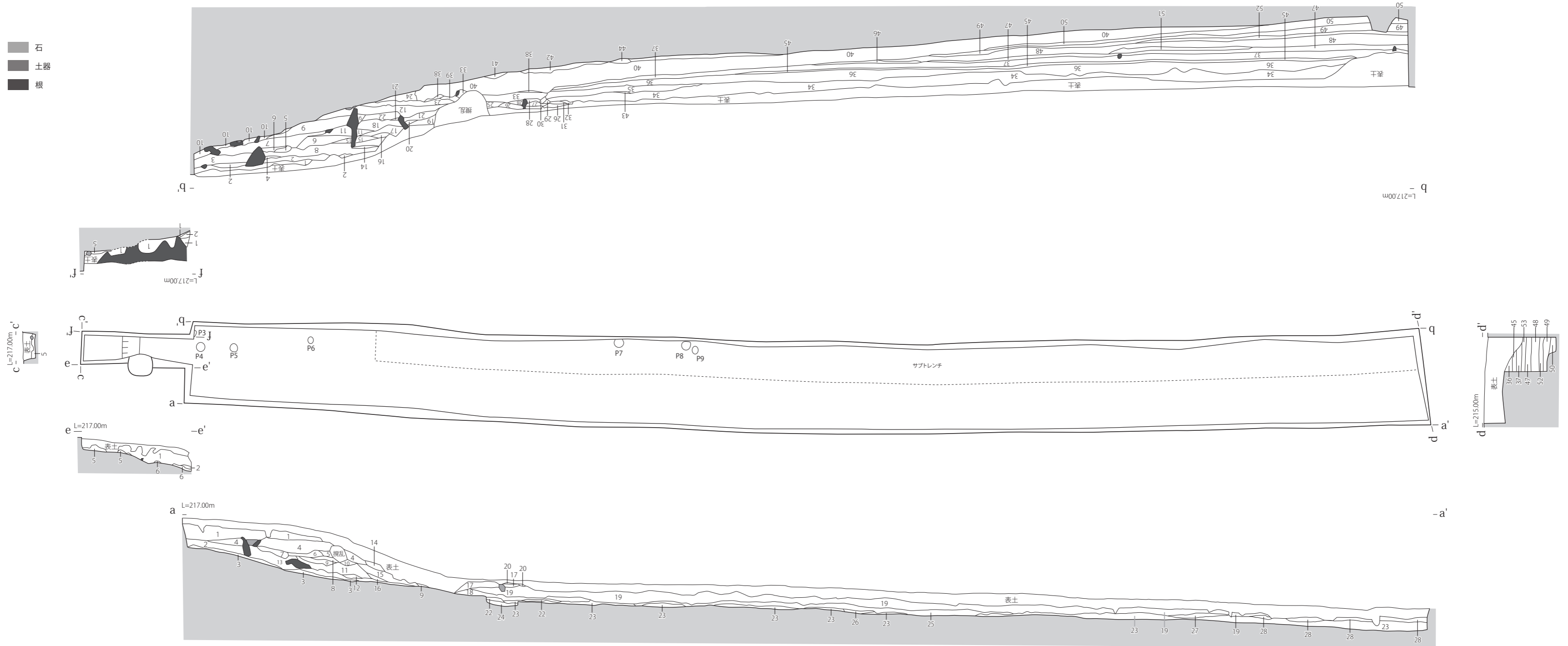
遺構は検出されなかった。

(3) 遺物の出土状況

土師器・須恵器が混在して出土したが、後世の攪乱と思われる。下層からは縄文土器・石器が出土した。



- 石
- 土器
- 根



第91図 第8bトレンチ図

T8a 東 (b-b')

1. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
2. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 粘性中程度
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト粘土 粘性中程度 しまり弱い
5. 10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性強い しまり弱い
6. 10YR5/6 黄褐色シルト粘土 粘性強い しまり中程度
7. 10YR6/8 黄褐色シルト粘土 粘性強い しまり強い
8. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 土器粒含む
9. 10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
10. 10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 土器粒含む
11. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 粘性強い しまり弱い 土器器片含む
12. 10YR6/6 明黄褐色シルト粘土 粘性強い しまり強い 褐色土含む
13. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 土器粒含む
14. 10YR6/6 明黄褐色シルト粘土 粘性強い しまり弱い 黒色土含む
15. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度
16. 7.5YR3/1 砂質粘土 粘性・しまり中程度 小粒礫含む

T8a 西 (a-a')・南 (d-d')・北 (c-c')

1. 10YR3/3 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
2. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度
3. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
4. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 土器片含む
5. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 細砂まだらに含む
6. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 細砂まだらに含む
7. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 細砂まだらに含む
8. 7.5YR2/1 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 細砂まだらに含む

T8b 東 (b-b')・南 (d-d')

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質粘土 しまり中程度
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度
3. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 礫含む
4. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 黄褐色土混じる
5. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度
6. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度
7. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 礫含む
8. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂・土器粒含む
9. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂まだらに含む 土器粒含む
10. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い 粗砂含む
11. 7.5YR2/1 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度
12. 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 粘質・しまり中程度 粗砂含む
13. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い 粗砂含む
14. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
15. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 粗砂わずかに含む
16. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 礫含む
17. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 粗砂まだらに含む 土器片含む
18. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 粗砂まだらに含む
19. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性弱い しまり非常に弱い 土器片含む
20. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
21. 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
22. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂含む 土器片含む
23. 7.5YR2/3 極暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い
24. 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘土 粘性中程度 しまり非常に強い
25. 10YR4/4 褐色粘土 粘性・しまり弱い 砂含む
26. 10YR4/6 褐色粘土 粘性弱い しまり中程度 砂含む
27. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 粘性弱い しまり中程度 砂含む
28. 10YR4/3 極暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
29. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 粗砂含む
30. 10YR4/4 褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 粗砂含む
31. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 粗砂含む
32. 10YR5/8 黄褐色粘土 粘性弱い しまり中程度
33. 10YR3/2 黒褐色粘土 粘性弱い しまり中程度 砂含む 粗砂・礫まばらに含む
34. 7.5YR3/1 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
35. 7.5YR2/1 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度
36. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト 粘性・しまり弱い 褐色土含む
37. 5YR1.7/1 黒色粘土 粘性強い しまり弱い
38. 10YR4/2 灰黄褐色粘土 粘質・しまり中程度

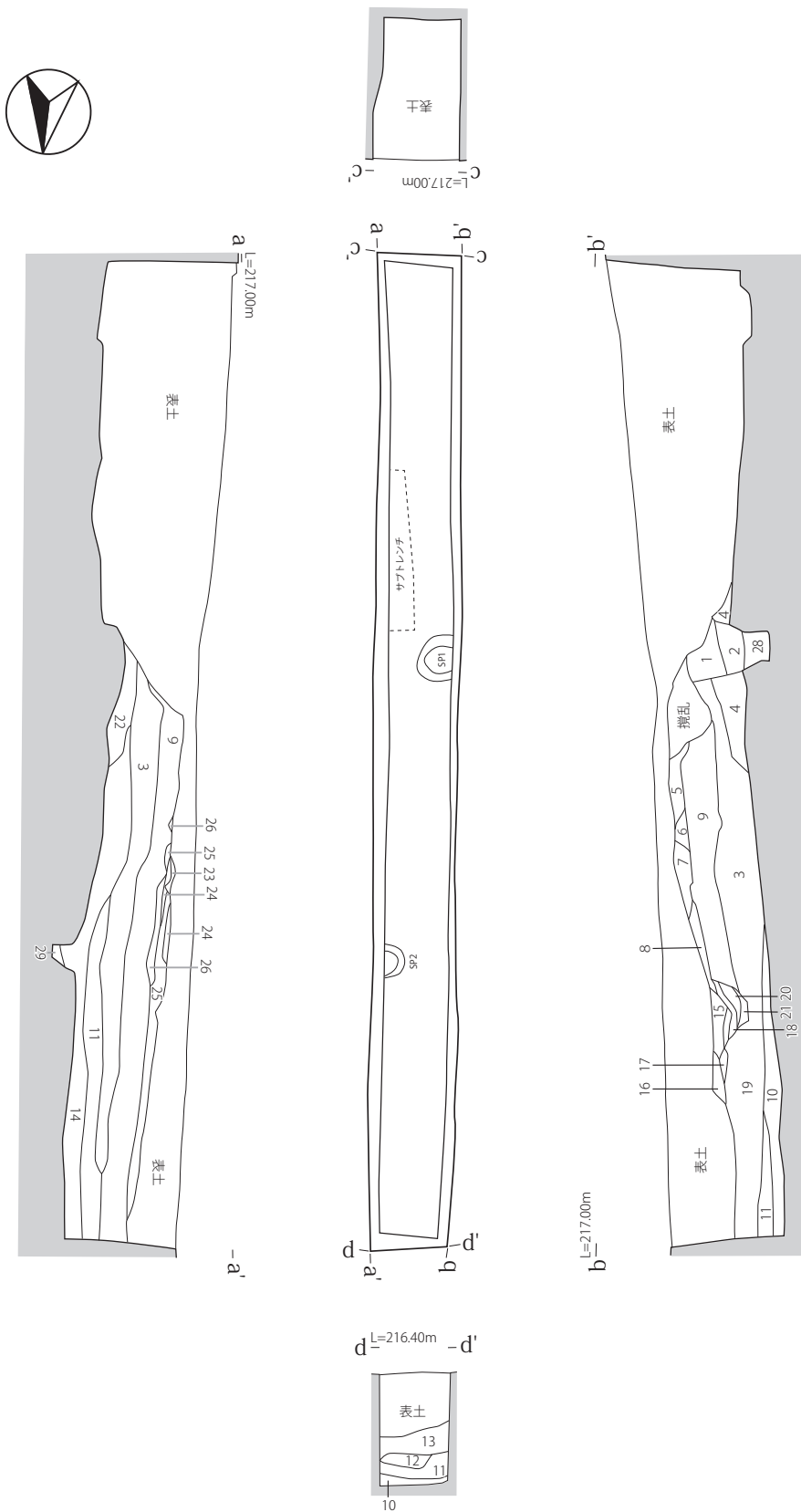
39. 10YR4/2 灰黄褐色粘土 粘性弱い しまり中程度 粗砂含む
40. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性中程度 しまり非常に強い 粗砂まだらに含む 縄文土器含む
41. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い 粗砂含む
42. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い 粗砂含む 黄褐色シルト含む
43. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い
44. 7.5YR3/1 黒褐色粘土 粘性強い しまり中程度 粗砂まだらに含む
45. 10YR3/1 黒褐色シルト粘土 粘性強い しまり中程度 にぶい黄褐色土ブロック状に含む
46. 10YR2/1 黒色シルト粘土 粘性弱い しまり中程度 にぶい黄褐色土ブロック状に含む
47. 10YR6/2 灰黄褐色シルト 粘性弱い しまり中程度 灰白土ブロック状に含む
48. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり弱い 砂質シルト含む
49. 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱い しまり強い 粘土含む
50. 5Y4/1 灰色粘土 粘性強い しまり中程度 植物遺体含む
51. 5Y6/2 灰オリーブ粘質シルト 粘性中程度 しまり強い
52. 2.5Y4/3 暗灰黄褐色シルト粘土 にぶい黄褐色粘土含む
53. 5Y2/1 黒色シルト粘土 植物遺体含む

T8b 西 (a-a')・北 (c-c')

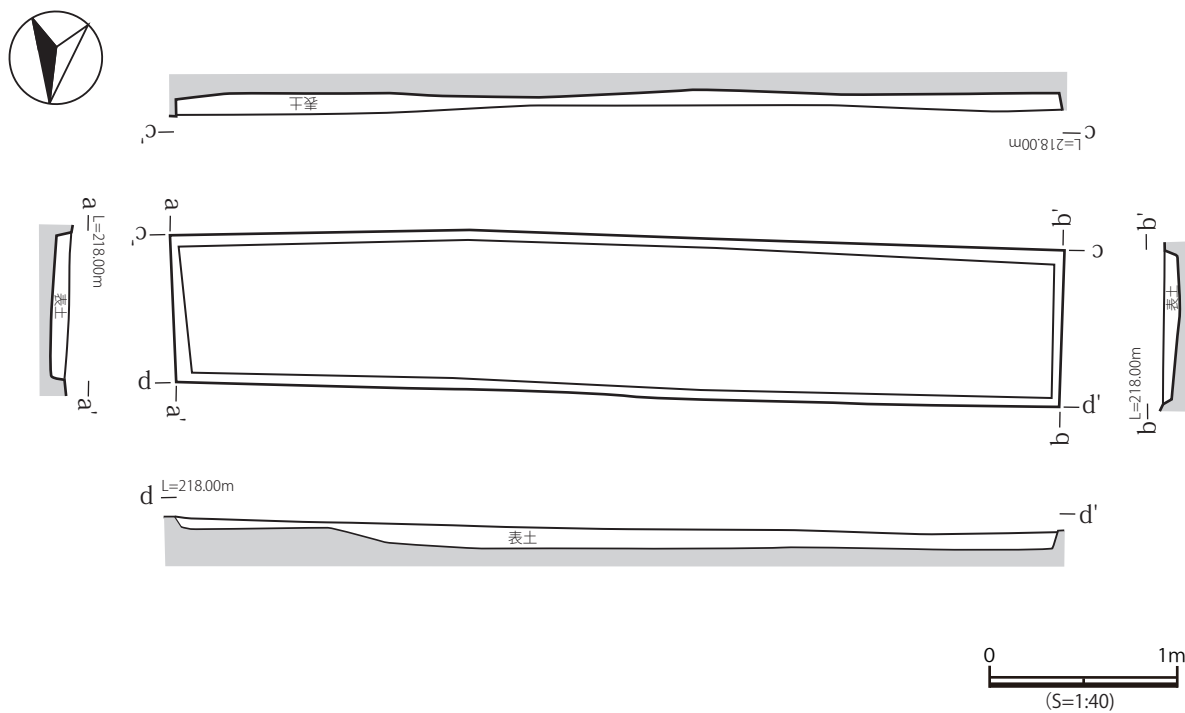
1. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 粗砂含む
2. 10YR2/2 黒褐色粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂含む 土器片含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 粘性中程度 しまり弱い 褐色土含む
4. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂まだらに含む
5. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂まだらに含む
6. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 粗砂含む
7. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 土器器片含む
8. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
9. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性強い 粗砂まだらに含む
10. 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度
11. 7.5YR1.7/1 黒色砂質粘土 粘性強い しまり弱い 粗砂含む
12. 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度
13. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 粗砂含む
14. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い
15. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性強い しまり中程度
16. 7.5YR3/1 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度
17. 10YR4/6 褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い
18. 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり非常に強い
19. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり中程度 土器片含む
20. 10YR6/6 明黄褐色シルト粘土 粘性弱い しまり強い
21. 10YR4/1 褐色シルト粘土 粘性弱い しまり中程度 黒褐色土含む
22. 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘土 粘性中程度 しまり強い 暗オリーブ褐色土含む
23. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト粘土 粘性中程度 しまり弱い 細砂少々含む
24. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い 粗砂まだらに含む
25. 10YR2/2 黒色粘土シルト しまり中程度 細砂含む 粘土含む
26. 10YR2/1 黒褐色シルト しまり弱い 細砂含む 灰黄褐色土含む
27. 10YR2/2 黒褐色シルト質砂土 しまり中程度 黒色度をブロック状に含む
28. 10YR3/2 黒褐色シルト粘土 粘性・しまり弱い

T8b 切り替え部分 (e-e') (f-f')

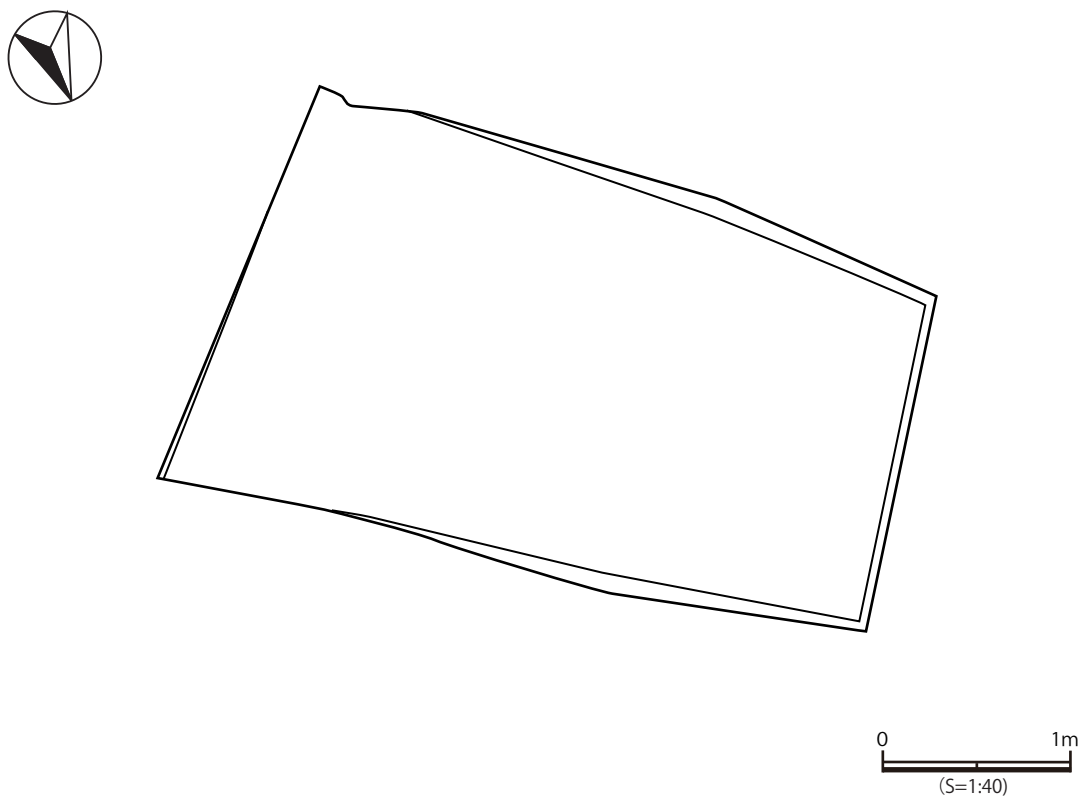
1. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 粗砂まだらに含む
2. 7.5YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 粗砂含む
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 粘性中程度 しまり弱い
4. 10YR2/2 暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり弱い 粗砂含む
5. 10YR6/8 明黄褐色粘土 粘性強い しまり中程度
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度



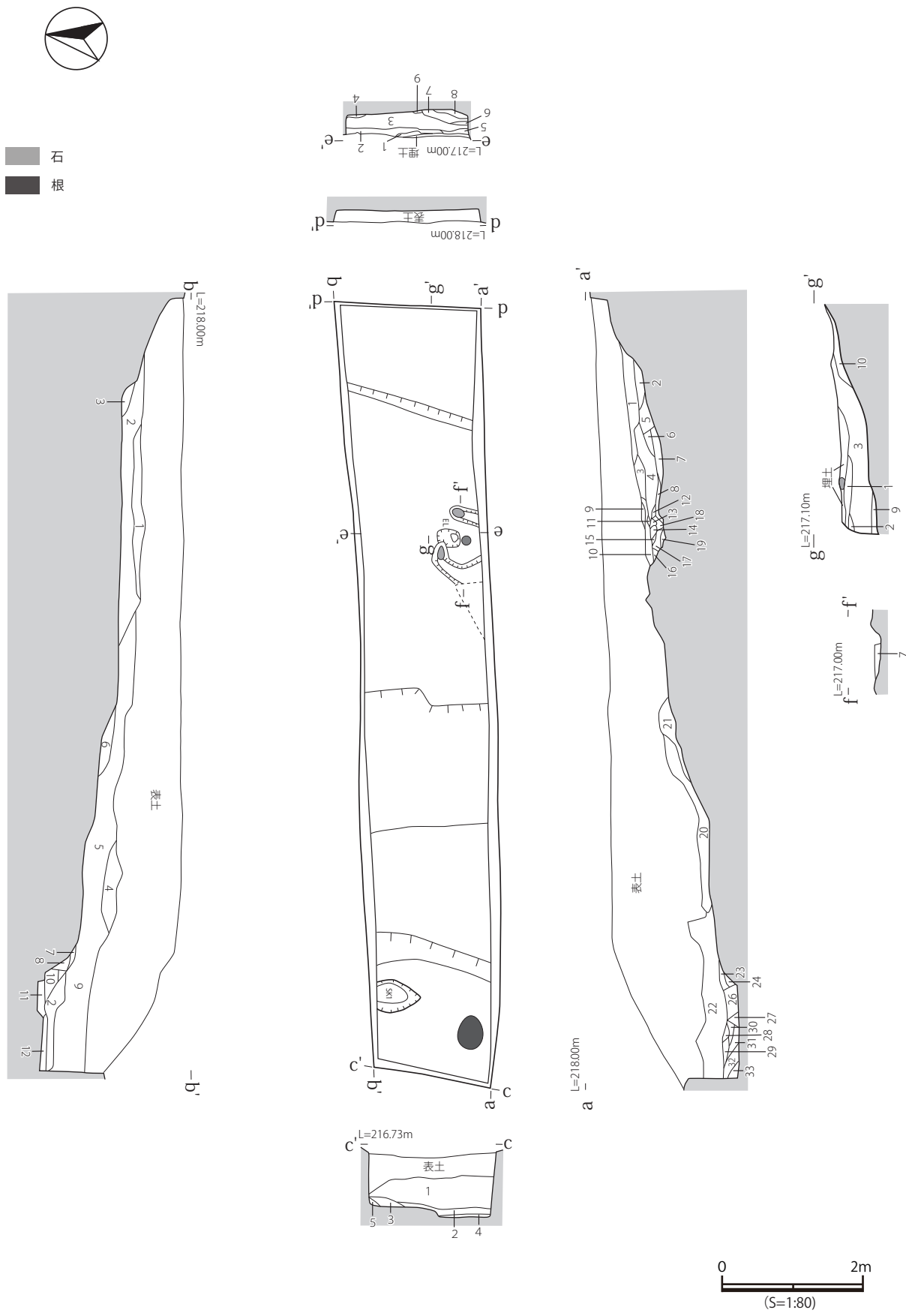
0 2m
(S=1:80)
第92図 第9トレンチ図



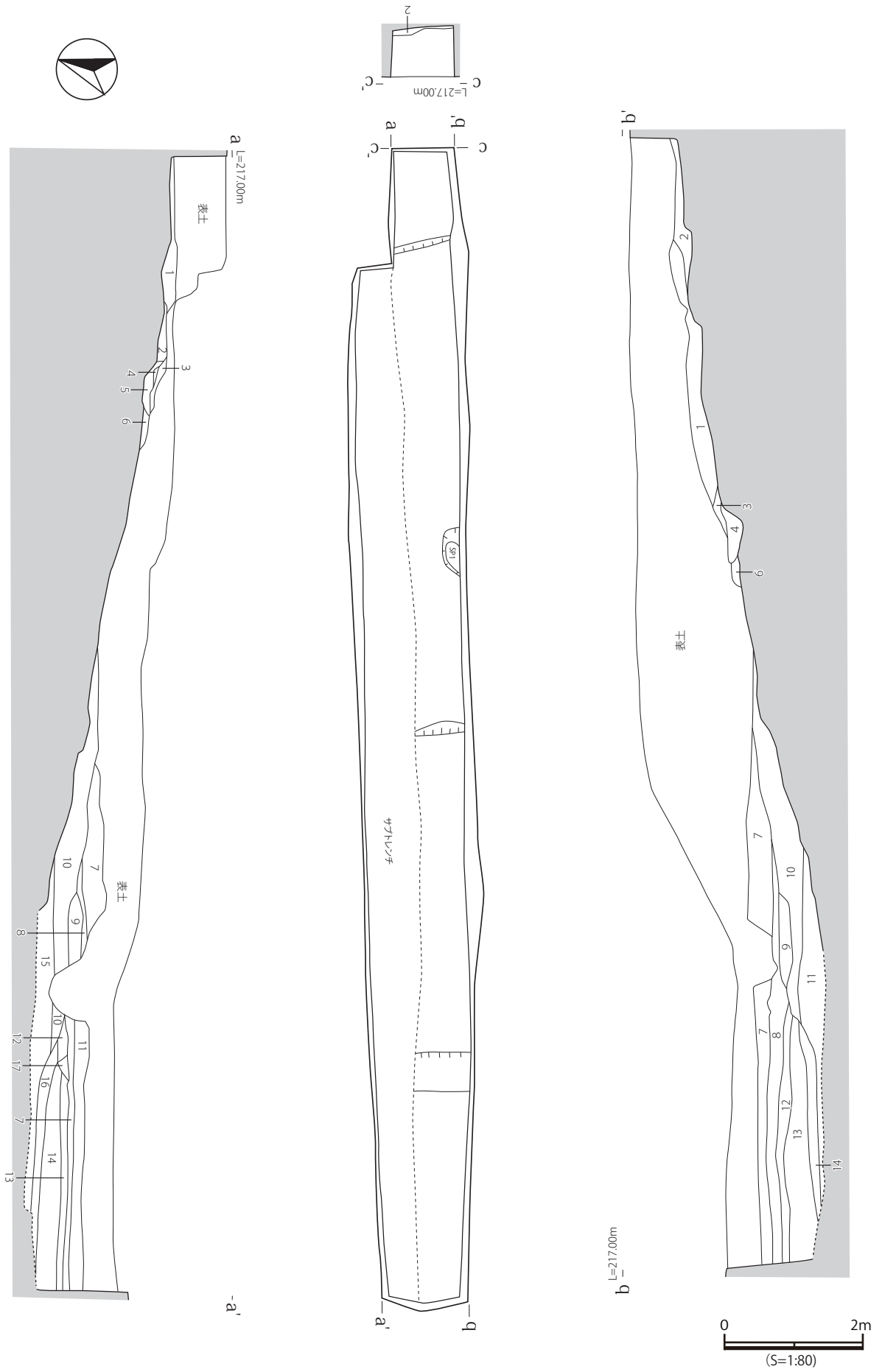
第 93 図 第 10a トレンチ図



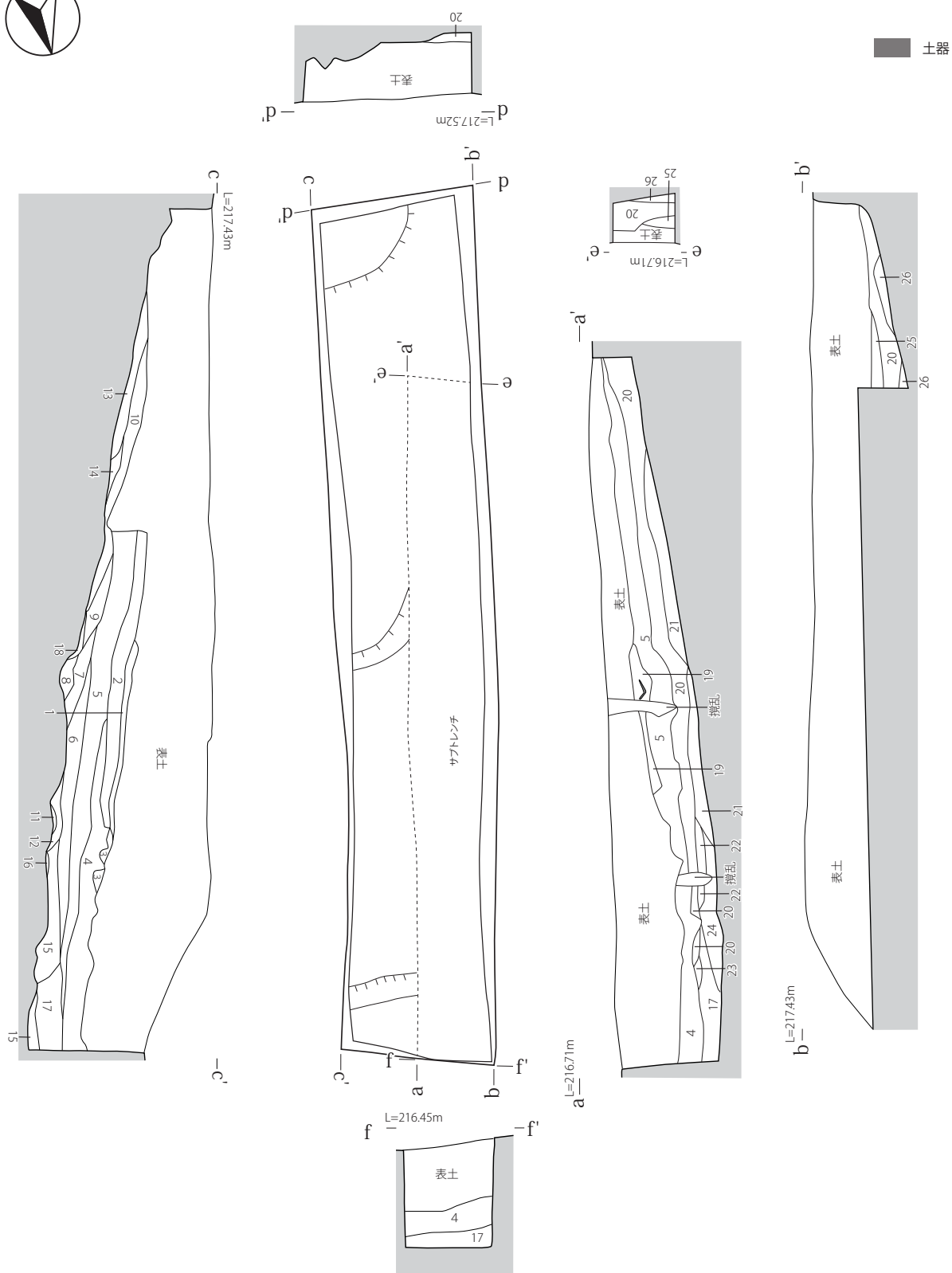
第 94 図 第 11 トレンチ図



第95図 第10bトレンチ図



第96図 第12トレンチ図



第97図 第13トレンチ図

T9 (a~d 共通)

1. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い 10YR3/4 暗褐色粘土粒含む
2. 10YR2/3 黒褐色シルト粘土 粘性中程度
3. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い 粗砂含む
4. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂多く含む
5. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 10YR2/3 黒褐色粘土含む
6. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 10YR2/3 黒褐色粘土含む
7. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 しまりなし 粘性弱い
7.5YR4/6 褐色粘土含む
8. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い
9. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱い
10. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 しまり強い
11. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり中程度 縄文土器片含む
12. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性強い しまり強い 粗砂・小石含む
13. 10YR2/1 黒色粘土 粘性強い しまり弱い
14. 7.5YR2/1 黒色粘土 粘性弱い しまり強い
15. 10YR3/3 暗褐色粘土 粘性弱い しまり強い 粗砂含む
16. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり強い
17. 7.5YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱い しまり強い
18. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
19. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
20. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
21. 7.5YR1.7/1 黒色砂質粘土 粘性・しまり弱い
22. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり強い 粗砂含む
23. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質粘土 10YR3/3 暗褐色粘土多く含む
24. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土
10YR5/4 にぶい黄褐色砂質粘土含む
25. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性きわめて弱い
26. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性きわめて弱い
27. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土
28. 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性中程度 しまり弱い 褐色土含む
29. 2.5Y2/1 黒色砂質粘土 粘性強い しまり弱い

T10b 南 (a-a')

1. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂含む
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト しまり強い
3. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い
4. 10YR3/2 黒褐色シルト 粗砂・小石わずかに含む
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
6. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまり強い
7. 10YR3/2 黒褐色シルト 小石含む 10YR4/4 褐色シルト含む
8. 10YR2/3 黒褐色シルト
9. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
10. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粗砂含む
11. 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
12. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土
13. 10YR2/3 黒褐色シルト 粗砂含む
14. 10YR2/2 黒褐色黒褐色砂質粘土 粗砂含む
15. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土まだらに含む
16. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 しまり弱い
17. 10YR3/2 黒褐色シルト
18. 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性強い 焼土混じる
19. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 10YR8/6 黄褐色粘土含む
20. 10YR2/3 黒褐色シルト粘土 しまり弱い
21. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
22. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり弱い 粗砂含む
23. 10YR4/4 褐色シルト粘土 10YR2/3 黒褐色粘土まだらに含む
24. 10YR4/4 褐色シルト粘土 10YR2/3 黒褐色粘土わずかに含む
25. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土
26. 10YR2/1 黒色シルト粘土 しまり強い
10YR5/6 黄褐色シルトわずかに含む 礫含む
27. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 10YR5/6 黄褐色シルトまだらに含む
28. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり強い
29. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
30. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 10YR5/6 黄褐色シルトまだらに含む
31. 10YR2/3 黒褐色シルト粘土 5YR 赤褐色粘土含む
32. 10YR5/6 黄褐色シルト粘土 10YR3/3 暗褐色シルト含む
33. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土

T10b 北 (b-b')

1. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土
2. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 細砂わずかに含む
3. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粗砂含む
4. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり弱い 10YR3/4 暗褐色砂質粘土含む

5. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまり弱い
6. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土
7. 10YR2/3 褐色砂質粘土
8. 10YR4/4 褐色砂質粘土 10YR2/2 黒褐色砂質粘土含む
9. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 10YR3/4 暗褐色砂質粘土含む
10. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土
11. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 礫含む
12. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土
13. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土

T10b 西 (c-c')

1. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり弱い 粗砂含む
2. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土
3. 10YR2/3 黒褐色シルト
4. 10YR2/1 黒色シルト 10YR4/4 褐色粘土まだらに含む
5. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土

T10b ベルト (e-e'・f-f'・g-g')

1. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 軟らかい
2. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり強い
3. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い・粗砂含む (堅穴住居覆土)
4. 10YR4/3 にぶい暗褐色シルト粘土 軟らかい
10YR2/3 黒褐色砂質粘土まばらに含む
5. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い
6. 10YR2/1 黒色シルト粘土 軟らかい
7. 10YR2/3 黒褐色シルト粘土 軟らかい
7.5YR2/2 黒褐色粘土まばらに含む
8. 7.5YR2/2 黒褐色シルト粘土 軟らかい
5YR3/6 暗赤褐色粘土 (焼土) 含む
9. 10YR1.7/1 黒色シルト 炭化物多く含む
10. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト粘土 しまり強い

T12 北 (a-a')

1. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまり弱い 礫含む
2. 10YR4/4 褐色シルト粘土 しまり強い 礫含む
3. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり中程度
4. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまり強い
5. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
7.5YR3/8 暗褐色粘土わずかに含む
6. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
7. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂・小石わずかに含む
8. 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまり強い
9. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂多く含む
10. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり非常に強い
粗砂・炭化物多量含む
11. 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 粘性弱い
12. 5YR2/4 極暗赤褐色シルト粘土 粘性中程度
13. 7.5YR3/1 黒褐色シルト粘土 粘性中程度
14. 10YR3/2 黒褐色シルト粘土 粘性中程度
15. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり非常に強い 礫含む
16. 10YR4/2 灰黄褐色シルト粘土 粘性弱い しまり強い
17. 10YR3/2 黒褐色シルト粘土 粘性強い

T12 南 (b-b')・東 (c-c')

1. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 粘性・しまり弱い
2. 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 しまり弱い
3. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり強い 7.5YR3/4 暗褐色粘土含む
4. 10YR2/2 黒褐色シルト粘土 粘性弱い
炭化物・7.5YR4/4 褐色粘土含む
5. 10YR3/3 暗褐色粘土 しまり強い
6. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
7. 7.5YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂含む
8. 10YR1.7/1 黒色粘土 しまり強い
9. 10YR2/3 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂多く含む
10. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性弱い しまり非常に強い 粗砂多く含む
11. 10YR2/3 黒褐色 粘性中程度 しまり非常に強い
12. 7.5YR3/1 黒褐色シルト
13. 10YR4/2 灰黄褐色砂土 粘性中程度 軟らかい
14. 10YR2/2 黒褐色シルト粘土 粘性中程度 軟らかい

T13 東 (a~f 共通)

1. 10YR1.7/1 黒色砂質粘土 しまり弱い
2. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり弱い 縄文土器・礫含む
3. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり弱い 縄文土器・礫含む
4. 10YR1.7/1 黒色シルト粘土 粘性強い 縄文土器含む
5. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 粘性中程度 縄文土器・礫含む
6. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり弱い 縄文土器含む
7. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い
8. 10YR2/3 黒褐色粘土 粘性・しまり強い
9. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり強い 粗砂含む
10. 10YR2/3 黒褐色粘土 しまり強い 粗砂含む
11. 10YR2/2 黒褐色シルト粘土 しまり中程度
12. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 しまり中程度 粗砂含む
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質粘土 粘性弱い しまり強い 粗砂含む
14. 10YR2/3 黒褐色シルト粘土 しまり強い
15. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり強い 粗砂・縄文土器含む
16. 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 粘性弱い しまり強い
17. 10YR3/2 黒褐色砂質粘土
18. 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 粘性中程度 しまり強い
黒褐色粘土含む
19. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い
10YR2/1 黒色粘土・10YR3/3 暗褐色粘土まだらに含む 土器含む
20. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い
21. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり弱い 土器片含む
22. 10YR2/1 黒色砂質粘土 しまり強い 粗砂少量含む
23. 10YR2/1 黒色砂質粘土 粘性弱い
24. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土 しまり強い 粗砂多く含む
25. 10YR2/2 黒褐色シルト粘土 粘性中程度
26. 10YR2/2 黒褐色砂質粘土

参考文献

- 長橋至・佐藤庄一 ほか 1990『押出遺跡発掘調査報告書』「山形県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第150集」
山形県埋蔵文化財センター
- 佐藤鎮雄・佐藤庄一 ほか 1987『南陽市史考古資料編』南陽市

長岡南森遺跡発掘調査写真図版



第8トレンチ b 土層断面（南より）

長岡南森遺跡調査前状況



長岡南森遺跡調査前状況



長岡南森遺跡調査前状況





長岡南森遺跡調査前状況
(北より)



長岡南森遺跡調査前状況
(南西より)



第8トレンチ a 土層断面
(北西より)



第8トレンチ a 土層断面
(北西より)



第8トレンチ a 土層断面
(北西より)



第8トレンチ b 土層断面
(北西より)



第8トレンチ b 土層断面
(南西より)



第8トレンチ b 土層断面
(北西より)

第 10 トレンチ a 完掘状況
(西より)



第 10 トレンチ b 完掘状況
(東より)



第 10 トレンチ b 完掘状況
(西より)





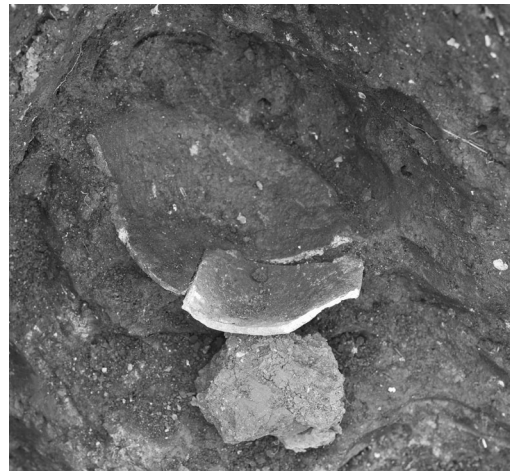
第10トレンチb e-e'ベルト (西より)



第10トレンチb f-f'ベルト (南より)



第10トレンチbカマド完掘状況 (北より)



第10トレンチb須恵器坏出土状況 (南東より)



第9トレンチ完掘状況（北より）



第13トレンチ完掘状況（西より）



第12トレンチ完掘状況（北東より）



第10トレンチb出土須恵器坏



第8トレンチb出土石器（石冠）



第8トレンチb出土石器（石筥）



第10トレンチb出土土製品（支脚?）

報告書抄録

| ふりがな | なんようしいせきぶんぶちようさほうこくしょ | | | | | | | |
|-----------------------|---|---------------------|------|-------------|------------------|--|----------------|------------|
| 書名 | 南陽市遺跡分布調査報告書（10） | | | | | | | |
| 副書名 | 市内遺跡分布調査・第四次長岡南森遺跡確認調査（概報） | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | | |
| シリーズ名 | 南陽市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第23集 | | | | | | | |
| 編著者名 | 角田朋行 | | | | | | | |
| 編集機関 | 南陽市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒999-2292 山形県南陽市三間通436番地1 TEL 0238-40-3211 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 2022年3月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | 。 ’ ” | 。 ’ ” | | m ² | |
| 市内遺跡 | 山形県 南陽市 地内 | 6213 | — | — | — | 2021 | — | — |
| ながおかみなもりいせき 長岡南森遺跡 | やまがたけん 山形県 なんようし 南陽市 ながおかあざみなもり 長岡字南森 1650-1 他 | 6213 | 052 | 38° 02′ 13″ | 140° 9′ 28″ | 20210512 ～ 20210720 | 145.3 | 遺跡確認 調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 市内遺跡 | — | — | | — | — | — | | |
| ながおかみなもりいせき 長岡南森遺跡 | 散布地 | 縄文時代・古墳時代・ 古代・中世 | | カマド跡 ピット | 縄文土器・ 土師器・須恵器 | 長岡字南森丘陵においてトレンチ 調査を行い、遺跡の性格・時代等 を確認した。 | | |
| 要約 | <p>市内遺跡：市内における各種開発事業に伴う踏査、試掘調査、立会調査及び広域調査。</p> <p>長岡南森遺跡：本遺跡は南陽市内の国指定史跡の前方後円墳・稲荷森古墳から南東へ130mに位置する独立丘陵に位置する。長岡南森遺跡は、南森と呼ばれる独立丘陵地を中心とする遺跡である。丘陵の形状が前方後円墳に似ていることから昭和53年に稲荷森古墳調査団が確認し、平成5年度に南陽市教育委員会で踏査を続けてきたが、平成28年度に市教育委員会遺跡の現状把握と今後の調査及び遺跡保護の基礎資料を得ることを目的に測量調査を実施した。今年度調査においては丘陵南半部を中心にトレンチを入れたが、遺跡の性格が明確となる調査結果は得られなかった。また縄文時代・古墳時代・古代の遺物が出土した。</p> | | | | | | | |

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 23 集

南陽市遺跡分布調査報告書（10）

市内遺跡分布調査

第四次長岡南森遺跡確認調査（概報）

2022 年 3 月 31 日

発行 南陽市教育委員会
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の 1
電話 0238-40-3211 (代)

印刷 有限会社文進堂印刷
〒 999-2221 山形県南陽市柵塚 811 番地の 3
電話 0238-43-2116